

愛媛大学教育学部

第 119 号

同窓会報



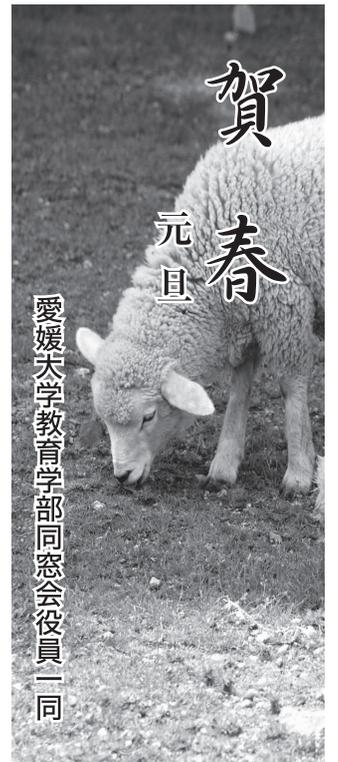
愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番

愛媛大学教育学部総務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-9395

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



賀 春
元旦

愛媛大学教育学部同窓会役員一同

ご挨拶



愛媛大学
教育学部長
二浦 和尚

愛媛大学教育学部の学部長任期は二年ですが、今年度から二期目を務めさせていただいています。改めて同窓会の皆様にごあいさつ申し上げます。

まずは、他の学部を増して、いつも温かく母校を見守っていただいておりますことに、心より感謝申し上げます。この二年半の間、愛媛県内は言うまでもなく、例えば岡山支部など、母校を思い、母校のために何かできるのではないかと考えてくださっている方がいかに多いかを痛感しております。昨年も記しましたが、そういう母校愛に支えられた学部にいることの幸せを感じます。

今夏の同窓会の懇親会でもお世話になりました。財布の入ったカ

パンを駅に置き忘れ、結果として会に遅れるという大失態を演じましたが（かばんは帰ってまいりました。日本人の素晴らしさを実感します）、温かくお迎えいただき、感謝しております。その節は本当に失礼いたしました。

さて、愛媛大学は今、大きな転換期に入っています。大学全体としては、来年度からの新しい学長が決まりました。地域に立脚する新しい学部「社会共創学部（仮称）」の設立も検討されています。それに伴い、教育学部においては、教育学研究科に「教職大学院」が設置されるとともに、教員養成課程以外の、いわゆる「新課程」が廃止され（平成二十八年年度予定）、教員養成課程の学生定員が少し増やされる方向です。

こういった方向は、国の教育改革と少子化に伴う学校教員需要の減少という傾向とに添うとともに、国の予算逼迫という流れを受けたものであるかと思えます。何しろ三十五人学級を見直そうという声上がる時代ですから。ただ、愛媛県においては、これ

から教員の退職が急増し、教員採用数も増えようかという時期です。ここで、この学生定員の大幅減は避けたいところです。また、教員養成課程にいるのだから必ず教員にならなければならないということでもないと思いますし（教員養成課程である以上、教員になるという前提で教育はしますが）、それよりなにより、教員が百人必要なところへ百人の養成をすることが、教員の質を保証することにはならないことは、誰が見ても明らかです。

そのようなまっとうな理屈が通らないまま、組織の改編を進めなければならぬ現状を、恨めしく思わざるを得ない毎日です。しかし、私たち教育学部は、引き続き、愛媛県に限らず、地域の教育の質を保証するだけの教員の養成に努めていきたいと、改めて気持ちを強めているところです。

閑話休題。先ほど、『まっとうな』という言葉を使いました。実は、先日、小学生の読書感想文を読んでいて、物語の中のおばあさんが「まっとうに生きていけばいい」といったことを孫に伝えるというくだりに出合いました。子どもの文章表現の中ですが、物語を背景に読むと、その「まっとうな」という言葉が私にはとても新鮮に、感動的に感じられました。「まっとう」という言葉は、哲学の言葉ではなく、日常の言葉で

あるはずですが、なぜそのように新鮮な受け止め方になったのか。よく考えてみると、まっとうな状態というのはいかにもそうあるはずの状態であるように見えながら、実は現実はずっとまっとうではない。それを突き付けられたような気がするのです。

掃除をまじめにやることはまっとうなことだけれども、まじめにやる子どもが評価されるとは限らない。まっとうでないやり方ができるような人間の方が、組織では「実力者」として評価される。そんな社会、時代は、本当は「まっとう」ではありません。わたしは、特別なことはいらない、まっとうな感覚でまっとうに生きていきたい。少なくとも教育の場は、そうあってほしい。そんなことを考えたことでした。

愛媛大学は「地域にあつて輝く大学」を標榜しております。大きな変革期にはありますが、教員を育てるということは人間社会の普遍的な営みです。教育学部は、地域に根差しながら、教員の養成と成長を保証すべく、生涯にわたる「教師の成長物語」に寄り添い、地域の教育に貢献する「まっとうな」学部でありたいと考えています。今後とも皆さんの格段のご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

目次

表紙	矢野 聖寿
「白泉の滝」	
題字 元愛大教育学部教授	菊川 國夫
「ご挨拶」	三浦 和尚
心響	
「連携と意識化」	
愛大附属中副校長 齊藤 昭夫	
理学部研究室内訪問	
「大橋 淳史先生 今日日は」	
「魅力的な話し方講座」(七)	古今亭 菊志ん
学部最近のニュース	
愛媛大学教育学部教育諮問会議を開催しました	
教育学部岡本威明准教授が「Poster Award」を受賞しました	
教育学部の安積京子講師がドイツでピアノコンサートに招待され、出演	
「教材研究プロフェッショナル講座」案内	
表紙作品「白泉の滝」について	
職場便り	
「坐迎師友」	
久万高原町・直瀬小教諭 玉井 優子	
「幼小中合同運動会」	
大州市・河辺小教諭 熊井 崇	
「たぐさんの出合いに感謝して」	
八幡浜市・八代中教諭 竹上 広子	
第十九回愛媛大学教職員作品展	
「光り輝き奔放隆びーズ作品」	
文芸	
俳句「句集より」	加藤 敏文
短歌「水の章」	井上真佐子
川柳「黒幕」	上田 千鳥
水墨画「墨色を楽しむ」	三好 靖子

連携と意識化

愛大附属中学校長
齊藤 照夫
(昭五七卒)

良きご縁を頂戴いたし、平成二十四年の四月、伝統ある附属中学校に勤務させていただくこととなりました。大変貴重な経験をさせていただきました。感謝いたしております。今回は、その中で教育学部附属持田地区四校園の連携についての具体的取組と、そこから学んだことをご紹介します。

今年度、附属中学校長として着任された太田佳光校長は、今年度の学校経営の基本方針として「連携」を示唆いただきました。具体的には学部との連携、小学校との連携、附属学校園としての連携です。これらの具体的な取組のうち、本校ならではのものを紹介いたします。

【学部との連携】

○学習相談体制の確立

今年度前期実施の学校評価にも、表れておりますが、学習への不安感、基礎学力の定着に自信がないと答えている生徒、保護者が増えつつあります。このことに対してご協力いただきますのが、本

学教育学部の先生方であり、ゼミの学生のみなさんです。夜間に学校を訪ねてください、どのようにかわればよいかについて、本校教員と綿密な打合せをいたしました。大学の先生の理論的裏づけ、学生のみなさんの豊かな発想、現場教員の適切なアドバイス。まさに三位一体となつてのプロジェクトチームの実働です。もちろん保護者からのご要望を戴いてのことです。感謝の何者でもありません。

○研究連携

教科によってさまざまですが、定期的に毎週授業実践についての事例研究を、大学の先生のご指導の下、熱心に取り組んでおります。この様は、実践理論と実践の融合といえましょう。



【小学校との連携】

小中の連携の要は、小学生が中学校の教育活動を本当に理解することと言えましょう。そのためには、小学生に中学校の教育活動の

ありのままの姿を見ていただき、実感を伴う理解を深めること。さらに小学生の瑞々しい感性でもってとらえさせることです。

そのために伝統ある「附中祭」と授業参観を体験してもらいました。このことは、本校受検に於ける面接での志望理由に如実に表れていました。

また、松山市の連合音楽会における合唱発表後の代表生徒のあいさつに次のような言がありました。「今までは、中学校講堂での合唱練習でした。声がよく響き、通るものでした。しかし、市民会館では全く響きません。そのため、今年度は小学校の体育館ステージを使わせていただき練習させていただきました。感謝です。」中学生が小学校との一体感を覚えた一瞬でしょう。

さらに小中教員同士の連携です。要は次のことです。

○腹を割って何でも話すこと ○マイナス情報こそ重要と鑑みての情報交換

九年間を通して、子どもたちの成長を願つての密なる連絡を大切にいたします。このことは、公立の小学校に対しても同様に行っております。

【附属学校園としての連携】

中学生の職場体験の受け入れ先、ボランティア活動としての運動会へのお手伝い、総合的な学習

の時間における探究活動としての幼児への絵本の読み聞かせ、特別支援学校生徒のみなさんとの交流活動として、幼稚園・特別支援学校との交流があります。同じ敷地内であるため、事前の打合せを気軽に実施できます。理想とすべき融合の姿が輝いています。

これらの連携を振り返り、次のことが学べました。

すべて相互の話し合いによる「納得、合意」のもとで進められていたこと。その過程を通して「新たなもの創造」が見られたこと。さらに、よりよきパートナーとしての「連帯の絆」が堅固になったこと。また、「連携から一体化」への自然な発展が体感できたこと。推進者の「マネジメント能力の高揚」が見られたことです。換言すれば、すべて教師の明確な意識化の結果とも言えましょう。



先輩を偲ぶ……………(21)

林傳次先生遺稿集「把翠」を繙く(十) 会員の声……………(22)

「久万高原遊山会の窓から」 古田 隆……………(22)

「見つかった卒業文集」 替地 和人……………(24)

「昭和二十八年頃の松山市街あれこれ」 小野植元幸……………(24)

同期会……………(24)

第三十一回同期会「二九の会報告」 小野植元幸……………(25)

支部だより……………(25)

南宇和支部「石の上にも三年？」 若田 正……………(27)

県外支部だより……………(27)

「第三回同窓会岡山支部総会・忘年会開催報告」 神崎 順治……………(28)

学内トピックス……………(28)

教育学部留學生歓迎会を開催しました 愛媛県美術館の開館記念イベントで「藍染めぐり」を行いました……………(29)

第十四回愛媛大学教育学部同窓会懇親会報告……………(29)

叙勲・受賞……………(21)

同窓会への寄付者……………(21)

叙勲・受賞……………(21)

同窓会への寄付者……………(21)

敬 甲……………(31)

原稿募集……………(32)

放送大学前期入学生募集……………(32)

第五回 愛媛大学ホームカミングデーを開催しました……………(33)

学部
の
今

研 究 室 訪 問

理科教育研究室
大橋淳史先生 今日

九月に入っても残暑厳しい中、超多忙な大橋先生にご無理を言っ
て、研究室訪問をし、理科教育に
ついて色々お話を聞かせて頂い
た。

教育現場への働きかけについて
今、現場への働きかけは、「藍
染め」に関する事です。その関
わりは、幼稚園、小学校が多いで
す。中・高校にも声をかけている
のですが、どうしても学校行事と
の関係があり、それも、年度当初
に学校行事日程が決まっているの
で、途中で入り込ませることは大
変難しいことです。



幼・小は自由度があり、大変面
白そうだからやってみようかとの
考えが高いです。

一番最初に始めたのは、道後の
聖母幼稚園でして、そこは大変積
極的に受け入れてくれました。今
年は、この活動の様子をTVや新
聞が取り上げて下さったので、他
の幼稚園や小学校からの問い合わせ
が増えました。

愛媛大学G Pとの関わりは

愛大G Pは本来は教育学部的に
は、学生への教育がメインでして、
もともとは、学生の方からアイ
ディアを出して、多方面での活動
を推進していくことが狙いなので
す。この「藍染め」の活動もその
一環となっているのですが、もっ
と色々な試行を実践していきたい
との思いで計画しております。
しかし今は、なかなか学生から
の活動内容を積極的に持ち込んだ

りしてくるアプローチには至って
おりません。

今は、この伊予地方の伝統文化
として、「伊予餅」に目をつけて
いたのですが、私は、化学の研究
をしていることもあり、「インジ
ゴ」の合成を慶応大学に勤務して
いた時から、実験等をしていた関
係で「藍」は凄く簡単に合成でき
るので。それも溶液に溶ける
二つの物質を混ぜると、その溶液
に溶けない沈殿物が出てくるので
す。これが「藍」なのです。だか
ら二つの溶液を混ぜるだけで、沈
殿物として「藍」が取り出せるの
です。後は濾過するだけで「藍」
が取り出せ、簡単に作る事が出
来るので、これは非常に簡単だと
思った時が慶大にいたときの感想
です。

愛大に来て、せっかく「藍」を
作っているのだから「藍染め」に
活用できないかなと、自分たちが
合成した「藍」で「藍染め」を学
生にさせました。その時ふと「こ
の地域には『伊予餅』という伊予
織物の伝統文化があるのだ」と
思ったのです。学生にそのことに
ついて尋ねると、殆どの学生がそ
れを知らないというのです。「伊
予餅」という言葉は聞いたことが
あるけれど、藍染めを通じての
伝統文化があるということは認識
していませんでした。愛媛に
藍染めがあるということがどうし

ても結びつかないという学生が何
人もいるのです。これはおかしい
のではないのかなと思いはじめたの
が、これを実施する動機付けとな
りました。それで、その翌年に教
育学部にてG Pを頂いてこの活動に
拍車がかかりました。

最初に道後聖母幼稚園で実施し
た時、保護者の感想に「伝統文化
であることは知っていたのだが、
それに触る機会がなかったため、
このような機会を捉えて子供と共
に活動することで、子供が『藍染
め』というものに非常に興味を抱
くようになっていくのがよく分か
った。」とか。「藍染め」の風
呂敷とか織物とかは家に沢山あつ
たのだが、今までは全然興味を
持っていなかった。この活動を通
じて興味が湧き、帰宅して再度「藍
染め」の品が沢山家にあるのが見
つかり、ますます興味が湧いてき
て、非常にいい経験をした。」等
を聞かせて頂きました。

そうしたところから、学生自身
も「活動してみても楽しかった。」
という学生が非常に多く、このこ
とから「先生に益々なりたくなつ
たとかの思いが高まってきた。」
ということもよく聞きました。こ
のような活動を通して、明確な将
来像に結びつく事になります。

先生になろうとする人達が、そ
の伝統文化の大事さというものを
知っていないと、子供達に伝えて

いくことは出来ないです。

この活動を主軸にして、学生達
と伝統文化、別に、藍染めに限ら
ないのですが、減り去ろうとして
いる伝統文化に関して、色々なと
ころからフォローできたらなあとい
う思いで、もう少し試行範囲を
広げた形でしています。

しかし、伝統文化そのものを
そっくり残すのは難しいので、そ
の時代の時代に合わせながら、そ
の伝統を残していくという活動が
大切だと思います。そこで、この
伊予餅を最も身近な形にできない
かなとの発想を發展させていきま
した。

今は糸を買ってきて、手織機も
あるので、それでうまく絞り染め
をと思、模様をつけるところま
できています。

道後聖母園では、子供達が毛糸
の手織機で色々なポシエットを
作ったりしているの、それにも
応用できると思い準備をしていま
す。

このように色々な物ができると
思いますので、学生自身もそれを見
つけてきてくれるといいなと
願っております。

久枝小学校で、学生がこの実験
をして見せたら、それを受けた子
供が、その面白さを家に帰って話
すと、或る父親がそれを聞いて、
「二分の一人式」の時、それを
使って何か出来ないかと、学校へ

相談、依頼してきたそうです。学校は、絶対やってみたいので何か出来ないかと、それを私の方へ連絡、相談してきたので、協力しましょうと引き受けて実施しました。

そこで、手形で抜き染めをすることにしました。このことは、「二分の一人式」にはいい思い出、記念になると考えたからです。



この実験を通して見えてきた理科教育について

何時でもですが、どこへ行っても、愛媛の理科教育は非常に熱心だなあと感じしております。

愛媛では「理科教育研修会」で、松山市の、中学校理科主任の方々と一緒に活動するのですが、皆さん非常に熱心です。何時も忙しい合間を縫って研究に参加され、熱心に取り組んでいる姿勢に何時も感心します。やはり、理科学習に取り組む子どもへの動機付けには大変良い影響を与えるのではないかと思います。

松山市の中学校理科主任会と教育委員会が共催している「おもしろ理科」にも大学の先生も参加して欲しいと言うことで、立ち上げ時から大学の理科教育も参加協力してきています。教育委員会としても、理科教育に携わっている先生方の理科のスキルをより高める事が出来ないかと熱心に取り組まれております。私もその方面で出来るだけ協力していけたらとの思いで参加協力しています。

また、県教育総合センターでは、こちらに来て以来一緒に活動させて頂いており「サイエンスパートナーシップ」について、毎年担当させてもらっています。また、科学技術振興機構の助成事業もしております。

昨年度は一年目だったし、私も十分活動ができていなく、応募数が少なかつたのですが、今は自身現場の事情が十分見えてきたこととありますので、活動方法も十分身に付き、二年目の今年は二十名スタートとなって、応募したところ、昨年は九名で全員参加だったのが、今年は三十名近くの応募者があり、やむなく抽籤で二十名に絞ったというのが現状となつてきました。やはり、人数が増えてくると理科への関心が高い子が集まるので、相互に影響し合い、理科参加への態度も益々良い方向に向かって取り組んでいこうとする

雰囲気の高まりを感じました。今回の参加者の特徴は、女子生徒が半分近くを占めました。そして、極めて熱心で、真面目に取り組んでいました。

先日、「ひらめきときめきサイエンス」の活動では、今治や大洲方面の小学校五、六年生の方が結構参加されてきました。結構潜在的な需要が大きいと思いますので、今後、これをどのように開拓していくかが問題です。

「理科観察 実験 体験プログラム」ですが、これも暫く前から実施していて、小学校で指導する理科の実験をだんだん網羅する形で非単位の科目として開講しております。学生が先生として、学生に教えるという形式ですが、これも実際に子ども達に教える方が学生にとつても経験になります。

また、子どもにとつても一寸した経験になりますのでいいですね。今後何か現場での色々な先生方と組んで活動できたらいいかなあと考えています。

それぞれの活動に参加してみてもの学生の変容は、子ども達と一緒に取り組んでいくと、色々な発見があり、楽しく面白いと毎回参加する学生が増えてきました。その子ども達と関わるのが大変楽しいので、「できたらどの会にも参加したい。」とか、「興味が益々湧いてきた。」と言ってきていま

す。今年の生活環境科の四回生からは「こういう藍染めの活動を通して、子どもに対する教育とか、理科への取り組み方が分かってきて、益々研究を深めたいとの思いが湧いてきた。」と言われました。このように学生自身も面白さを体感し、それを皆に伝えていけば発展していくのではと感じました。

漫画を活用した理科教育の指導法について

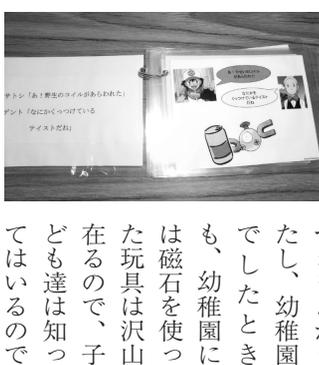
昨年の四回生、今年は講師として採用され活躍しているのですが、彼女が漫画の「ポケモン」が大好きで、どうしてもポケモンを使った卒業研究をしたいというので、そこでポケモンを使つての理科教育についての研究を始めたのです。今までもドラえもんを使つた理科解説書などがありましたが、あまりキャラクターと教材は関係なくて、それがドラえもんであろうが鉄腕アトムに置き換えても、なにも差し支えの無いものでした。彼女が、「ポケモンにはキャラクターの分類と言うのが、科学的に言うと、元素の分類のよう



に分類できるから、これを使えば必ず教材として取り扱うことができるのです。」と言うので、そこで漫画の手法で小さい子どもでも分かり易く、興味が持てるようにやってみたらなあと言うのが動機でした。

内容的には、だいたい小学校理科の内容を、幼稚園の年中、年長さん位から小学校の低学年位まで、人気者のポケモンを使つてよく分かりやすくポケモンのアニメ的な流れで学んでいくことの狙いで幾つか作ってみて、実際に幼稚園の年中、年長、小学校の低学年に実施したのですが、なかなかの好評であつて、「続きを読みたい」という子ども達の反応が大きかつたです。

例えば、磁石の話をも漫画的に説明した後に、実際に磁石が、アルミ缶、スチール缶、木のスプーン、金属のスプーン、色違いのクリップを提示し、これはどうなるかを予想しながら実験してもらつたりすると、結構子ども達の食いつきもよかつたし、幼稚園でしたときも、幼稚園には磁石を使った玩具は沢山あるので、子ども達は知つてはいるので



すが、それでも色つきのクリツプを並べてどれがくつつくかと言うと、結構みんな色々考えて、それを試行してみても、それが終わると自分の教室の中に在るもので実際に実験して、くつつくかどうかを試し始めたのです。漫画のキャラクターを使って、一回その世界に入り込んで興味を高めてから、実際に体感的に取り組ませながら学習効果を高めると言う事が分かってきました。導入教材として非常に良い教材です。

今一番問題なのは、スムーズに理科学習の中に入り込めない子がいると言うことです。そこには、最初にボタンの掛け違い、最初に滑ってしまうような子がいるので、そこに動機付けとしてキャラクターの特徴を生かして面白いと興味付けをさせようということになります。

私自身「科学技術振興機構助成事業」活動での経験からですが、現在中学一年生の子なのですが、その子は小学生の頃から、粘菌を培養し、今も非常に熱心に観察していて、粘菌というのは菌の中の一形態なので、条件が変わると胞子となって飛んで行ってしまふので、そうならないような状況で飼育して、継続培養させたり、代替わりさせたり、結合させたりしての研究で、文部科学大臣賞等の賞を沢山受賞している子なのです

が、その子の発表を聞くと、彼は粘菌を所謂ポケモンみたいなキャラクターのようにして捉えていて、この粘菌の攻撃性はAで、防御性はBだからという説明をするのです。この事から漫画的、アニメ的キャラクター性、物語性を活用して、それを教材導入時によりスムーズに受け入れられるのではないかと思うのです。

サイエンティフィックな分類とか、形態の観察とかで、普通の子どもがしているゲームとかアニメを見る感覚で同化していくので楽しく受け入れられて、積極的に研究が出来ると言います。彼としては新しい粘菌を求めてあちこちに行くのですが、彼にとってはそれがまるで新しいモンスターを捕まえる作業なので、苦痛ではなくて楽しくわくわくする出来事になっていくのです。このように、一寸した見方の違いでかなり物事は変わって来るものだなと思えます。

藍染めの教材化について

こうすれば、この様になると言う作成過程のシステム化としての形態は整えていますので、いつでも活用、活動は可能です。後は何処で使うかが問題になってきています。

また、今は大勢で取りかかっても可能になってきています。この「抜き染め」で一番時間がかかる

ところは、色を抜く過程で、ジ亜塩素酸で色素を分解しなければいけないのですが最初の頃、これをもともと実施していた時は、ドライヤーで乾かしていたのです。これでは非常に消費電力がかかりすぎるのです。そして、回転が遅くて、それを使用する時、行列になってしまうのです。これを始めた先生は、これをアイロンでされていたのですが、アイロンですると、型のクリアファイルも、熱でやられてしまうのです。これではまだ問題があるので、オリジナルとして、「ズボンプレッサー」を活用しました。これだとそこそこの熱なので、火傷しないし、後はズボンプレッサーに並べて置くことが出来るので、それを使って三分待てば、その間に色が抜けます。その見えない三分間を待つ楽しみもあります。且つ、その状態だと、わりと低温で色は抜けるのです。だから塗った糊も固まらなくて、簡単に洗い流すことが出来る、非常に便利です。だから、作業システムを確りしていると、それが簡単に出来ます。藍染めの方も天然の藍染めは比較的時間がかかるのですが、そうではなくて、普通の薬を使うと、薬を五十五度〜六十度のお湯に入れて、強アルカリ性にしてファイドロサルファイドナトリウムといって還元剤を入れないと染められないのです。

この準備で非常に時間がかかる。お湯じゃないとできないのでこの点で非常に時間がかかっています。したが、それも、「藍熊染料株式会社」の水で使える染料を使う事に変えました。それというのも、粉の染料を水に溶かすだけで藍染めが出来るのです。少し値段が高いのですが、準備としては、ただタライに水を張ってかき混ぜれば何時でも藍染めが出来るのです。これを久枝幼稚園で扱ったように、子供達自身で染めることもできるという風になりますので、教材もそのような形で使えば、簡単に染めることも出来ますし、後、抜くことも出来るし、よくなりました。

また是を開発された先生が実施している、糊で藍の染液を固めるのですが、そうすると糊の量によつて、是が少なければ墨みたになり、筆毛で塗ることが出来ません。そこで、白い布に塗ると絵が描けるので、抜き染めに使う形を白い布に置いて、上から塗れば、ネガとポジが逆転して、白地に藍色がワンポイントの型染めをする方法もあるので、それを私達は和紙を使ってできるのではと考え、今はそれを試しています。和紙に藍染めの線で絵を描いたりするかそういう形で今後使っていけないかと、是は簡単に出来る教材として使うのには適しているのではないかと考えています。

特に図工の時間にさつと出来ます。そこで、今それをしようと計画していて、藍染めで水墨画みたいにして、絵が描けるのではないかとの発想です。

愛媛県は和紙産業も盛んですから、このような所とも協力して実施すれば、和紙産業と藍染めの伊予産業とが合体して愛媛の新しい形の伝統産業として発展するのではとの思いもあります。

今年には綿花の栽培も始めました。今、聖母幼稚園と附属小学校で綿花の栽培をしているところで、今、それが収穫できはじめてるので、是を使って何か出来ないかと計画しているところです。今、一番簡単なのは、糸作りなのですが、糸を作って「綾取りキット」作ってみてはどうかと計画しています。

卒業生への呼びかけ

最近は大変な訪れしてくる卒業生が結構多くなってきました。今年就職して頑張っている人は、時々話しに来てくれますね。これからも、このように気楽に来られるような状況、雰囲気をつよように大学側も努力していきたいものです。先ずは顔を出すことからで良いのです。大学は決して敷居は高くはないのです。学校現場の側も敷居の高さを感じているのではないかと危惧しています。最近現場の先生方は大変忙しい



先生の理科教育現場への働きかけは実に熱心で、その実践から来る引き出しの多い事例はどれも貴重で、時間が経つのも忘れて聴き入っていた。

ので、こちらへ来られる時間がなようです。また、連絡、相談も大学へ行かなければ出来ないのではとお考えのようですが、遠慮無く、大学に連絡、相談して頂き、要望があれば、こちらから積極的に出向いて行こうとする心の準備は何時也十分持っています。このことは、こちら現場の様子、状況をそこで知ることができるので、大いに関わりたいのですから。



伝統の継承プログラムを通した

グローバルマインドの育成 【担当教員：大橋淳史】

この活動は、忘れられようとしている伝統文化を復権する作業を通して、地域と協働し、地球規模で考えるグローバルマインドを持つ人材を育成することを目的としています。

この活動では、学生が主体となり、愛媛県の特産品「伊予餅」の藍染めを素材に、幼稚園や小学校などと協働しながら、「藍の抜き染め」を実施しています。将来、幼稚園教諭、学校教員を目指している学生や、幼児教育、地域貢献に興味のある学生が参加しています。

抜き染めは、染み抜きの原理を応用し、藍染めしたハンカチに「ステンシル版画」をのせ、抜き染め剤を用いて行います。学生たちは、実施に向け、クリアファイルを使って「ステンシル版画」の型を製作し、木綿ハンカチを藍染めしておきます。

実施日には、下記の手順で抜き染めを行いました。

1. 藍染めした木綿ハンカチに、ステンシル版画を載せて固定する
2. 抜き染め剤（台所用漂白剤、でんぷん糊、片栗粉を混ぜた物）を塗る
3. ズボンプレッサーで3分間乾燥する
4. 洗う
5. 干す



抜き染め剤は家庭用を用いるため安全であること、また、ズボンプレッサーの使用により、短時間で効率良くできることなど、実施を容易にする学生の工夫が要所所で見られます。

この活動では、実施ごとに学生にアンケートを取っており、それをフィードバックした結果、学生の意欲や興味が上がっている様子が見られました。また、最初は興味がなかった学生も、参加を通して「地域性とは?」「伝統とは?」を考えるきっかけとなったようです。さらに、特別支援学校での実施に参加したことで、臨床心理士を目指すことになった学生もいました。

今年度は、これに加えて愛媛県の特産品であった綿花栽培、藍染めの元となるタデアイの栽培、新たな継承活動として日本酒造りや甘酒造りなどを行っています。そして現在、愛媛県産の和紙を使用したちぎり絵の企画が進められており、今後伝統継承の幅も広がりそうです。また、学術交流協定校などで行われる海外実習の中に、藍染めの実施を組み込むなどの企画も考えられています。

この活動を通して、学生たちが地域の一員として自覚と誇りを持って行動し、多様な人と協働できるグローバルマインドをもった人材として育成されていくことでしょう。



教員からのコメント



世界について考えるためには、まず自らについて知らなくてはなりません。愛媛大学教育改革経費「伝統の継承を通したグローバルマインドの育成」事業では、学生主体の活動でローカルの極致である伝統文化から自らの来歴を知り、広い世界と対比させることでグローバルマインドを育成することを目的としています。

学生は、多くの人と協働することで将来について考え、新たな技能・資格の修得を目指すなど、自らを知ることで視野を広げています。日本とは何か、世界とは何か、世界規模で考えながら地域で活動するのはどういうことかについて考えるようになりました。学生と地域の輪が世界に広がっていき、地域から世界を、世界から地域を考えられる学生になってくれることを期待しています。

「愛媛大学教育学部サポーター制度」より

「魅力的な話し方講座」(七)

古今亭菊志ん師匠講演より

(平十卒)



皆さん今日は。今日は皆様に「魅力的な話し方講座」ということで、話に参りました。

私はこの愛媛大学教育学部を卒業して二十年になります。今まで二十年前で私が落語家として人前に出て落語をしながら気をつけていることとか、注意しながら話をしていくことがありますので、それが皆様の聞きたいことと合致して、一つでもコツとか何か気が付き、それを身につけて帰ってもしっかり嬉しく思いますので、最後まで聞いて下さい。よろしくお願ひします。

今日の講座の構成について
今日の講座をどのように進めていくか、この様に考えてきました。

「魅力的な話し方講座」会場

講師 落語家
古今亭 菊志ん 師匠



先ず、私は落語家で、それを職業としているのですから、こうやって座布団に座って落語を皆さんに聞いて頂いて、その落語がどういう風に、今日のような不特定多数の人の心を惹きつけたりとか、どつと笑ったりすることになるのかと言うところを実際見て頂いたところで、感じて頂くのが一番いいのではないのかと思えます。そこでこれから落語を一席喋ってみます。その後私が普段どのような風に出る前に気をつけて準備しているかについて話

してみたいと思います。その後、これらを踏まえて、少しワークシヨップのようなことが出来ればと考えております。その時は、皆さんに前に出て来て頂いて座布団に正座してもらおうのではなくて、前に立って頂いて、何か私の方から課題のようなこと、テーマのようなどことを一つ二つ提案しますので、そのテーマに沿ったお話をさせて頂き、それが魅力がある話し方だったかどうかを皆さんに考えてもらっていききたいと思っております。

落語について

では、先ず落語を致しますので聞いてみて下さい。今日は非常にハードルの高い落語をしたと思います。本当にお前は心ゆさぶるような話が出るのかと問われているような感じがしております。そこで、いつも通りのお話をしてみても、そこから一つでも二つでも持ち帰って頂ければと考えております。

落語と言いますのはこのように皆さんの前で座布団に正座してお話を進めていきます。ちなみに今日初めて落語を聞くという方はいますか。もし初めてという方がいらっしゃったら、右手右足を上げていただきます。皆さんがよくTVで見ていると思

いますが、そう「笑点」です。これは大喜利といって頭の体操というか、頓知ゲームと言ったところですね。落語は一人で座って右を向いたり左を向いたり、登場人物を描き分けながらお話を進めて行くことですね。だから、私が一人で喋っているにも、二人の人物が対話しているように、もしくはそれ以上の人が対話しているように、その様に見えるたら世界が広がって来ます。

例えば、お客さんがやってきて、「こんにちは、こんにちは！」(客席から見て左に顔を向けて)、家の主人「はいはい、お何だお前さんかい久し振りじゃないか、どうぞどうぞ上にあがってくださいよ」(右手に顔を向けて)「じゃあちょっとあがらせてもらいますよ」「ええ今日は」「お本当に久し振りだったね」「そうなんですよ一寸仕事が忙しくてね」「お仕事がおおそうかい仕事か忙しいことは結構なことではないかい

今お茶を出してな さあさあお茶も入ったから、お茶を飲んで」「すみませんね こちらで頂くお茶がだいすきなんですよ」と言う場面にしますと、二人の人間が喋っている感じがします。分かって頂けたでしょうか。要は小道具も何も使わない、そして背

景のセットも何も使わない状態で、皆様の頭の中の考える力、想像力等を活用してもらいながら話を進めていかなければならないのです。だから、落語を聞いて笑える方は、ちゃんと想像が出来る人、この様な方が笑うことが出来る。もつと言うと頭の良い方なのです。想像が出来ていない人というのは、落語を聞いて笑うことが出来ない人だから、今日など隣の学生が笑っていない、多分馬鹿なのだろうと思われるので、嘘でもいいから笑っておいた方がいいですね。(笑い)

落語で手拭と扇子の使い方

使う小道具というものは、この様に二つだけです。一つはこの「扇子」、そしてこの「手拭」ですね。この二つを話の中で色々使い分けながら、話を進めていくのです。例えば「手拭」は落語の中にあつてはお手紙に使うと言うことをします。「なになに手紙が来たよ、どれどれこちらに於して、なんだなんだ学部長さんからだつて。ふんふんふんふん、なにこの間の講義が評判が良かったから又来てくれ、おとおおそしてギヤラが倍になるそうだって」(笑い)と、このようにこの「手拭」が手紙となり、いかにも手紙を読んだようにみえますね。それから、こちらの

分なりのまとめ」ということで、三分程度でお話を完結してもらいたいと思います。

私が入門時に言われたことは、先ず、マイクを意識せずに大きな声で喋り、会場最後列の方とお話ををするような気持ちで喋るようにと厳しく言われました。そうすると後ろの人も常に臨場感をもって聞いてくれて、会場が一つになるのではと考えます。授業でもこのことが通じると思います。

先生には、教科書を見、読み、黒板に書くことばかりの先生がいますが、これぞ反面教師として考えて下さい。

今日の話は、自分に関係の無い話だなど思われてしまったら、それで終わってしまいます。それは「つかみ」で引き付けて自分に関係のあることと考えて関連づけをするのですね。

これから前に出てきてもらってお話をしてもらおうのですが、此処で一つ気をつけてもらいたいのは、今日の重要なテーマ「魅力のある話し方」でスピーチをしてみようとのワークショップをしてみたいと思います。

参加者それぞれ、今日のスピーチのテーマ「先ず自己紹介をし、今日の講義の感想を述べ、最後に纏める」というパターンのス

ピーチを考える時間を取る。では、スピーチ用にメモを取っていた貴方、スピーチをお願いします。

女子学生A…「私は今年愛媛大学に来たのですが、キャンパス内を歩いていて何時も思うのは、皆さんの眼には私がどう言う風に映っているのかなということ

です。すれ違うときに、この人は学生にしては一寸と行っているような、大学職員かな、どうでしょう。学生と知っている方は手を挙げて下さい。はいありがとうございます。はい、ありがとうございます。笑

今日の方は確りと記憶しました。(笑い)今日の講義で私が一番学んだ事は「つかみ」ですね。「つかみ」が大事な事をよく学びました。今までの自分の生活を振り返ってみると、何時も挨拶して、即、「はい昨日は此処までやったから今日は何ページを開けて。じゃあ読む



よ。」と始めていました。これで私が何をしているのか分かりますかね。そう、私は高校の教員をしています。今年の四月から、幸いなことに機会を頂いて、大学院で勉強をしています。そして今日、三十七歳の誕生日を迎えました」(会場大拍手)

はい、ありがとうございます。素晴らしいスピーチでした。ここで今のスピーチを聞いて、今日の講義内容と併せて、感想、意見を言ってもらいたいと思います。

男子学生A…「つかみ」の部分で今は惹きつけられました。学生なのか職員なのかと問われたことで最後まで引つ張ってきて話に耳を傾けさせるということは素晴らしいと思います。この「つかみ」というのは、私も教育学部教員志望なので、生徒をどう惹きつけるか、飽きさせないかということが授業にも大変大切なんだということが分かりました。」

はい、ありがとうございます。スピーチも素晴らしいかったですし、加えて感想も素晴らしいです。やはり自分のことに興味、関心をもってもらって話を進めていって、クエスチョンマークを皆に投げかけていって、その最後が最後の自己紹介で終わらせて、皆の拍手でもって話の最後を締め



るといって、とても短い小話を聞いているようで、非常に素晴らしい纏まったスピーチだったと思います。

他に感想はありませんか。喋った内容もそうなんですけど、私が先に説明したように、テクニク的なもの、声の大きさだったり、スピードだったり、聞き取れなかつたという学生さんはいませんか。いや！やはり話が素晴らしいと感じたのですね。高校の先生と云うことで、もちろん人前で、喋っていることには慣れていらっしゃるのですが、それでもやはり皆さんはよく聞き取れて、話の内容が確りと伝わっていたということは素晴らしいスピーチだったと思います。

じゃあもう一人、はい、貴方お願いします。聞かれる皆様も、自分でするのだたらどのようになるのかということ、考えながら

参加して下さい。

女子学生B…「失礼します。先ほどの方の後での話ということは少しハードルが高くて困っております。私は教育学部の音楽文化コースのBと申します。私は中学三年の時から教師になりたいと思って、教育学部を目指すことになりました。教育学部で四年間勉強するに当たって、だんだん理想の教師像というのが膨らんできて、私は吹奏楽をやっていたので、生徒の気持ちをグツと掴んで惹きつけていきたいと思わせるような教師になりたいと考えていました。でも、先月、実家に帰ったときに、或る出来ごとがあつて、その考え方が変わりました。もう秋も終わり寒くなって来ていますが、秋頃に帰省したのです。その時栗ご飯を作ってくれたのです。我が家の栗ご飯には特徴があつて、ご飯よりも栗の方が多いのです。まるで栗のご飯が多いのです。栗と顔を出している様な、まるで『栗隙間ご飯』といったものです。そこで、何で栗こんなに多いのと聞くと『お母さんはな、小さい時、栗ご飯の時は炊飯器の上だけを剥くって、栗だけを食べていたんや。と、その時お婆ちゃんに、栗ばかり取るなど言われたんや。その時大人になつたら栗ばっかりのご



飯を作ろうと心に決めたんや。今も五十歳を過ぎたけれど、今も粟ばっかりのご飯を作っているのや。』と言ってくれました。その時に、自分は中学生の時に決めた、教師になろうとの気持ちを忘れてしまっていることを思い返すことができませんでした。何が言いたかったかと言えば、私が教育実習でペーベンとの交響曲第五番「運命」の授業をしたときに、やはり交響曲という長い曲を中学生が聴くというのは大変だと思うのですけれど、今日の講義で自分に関係ないと思わせたなら終わりだと言うことを学んでから、ああペーベンの第五番と中学生の身近にある合唱コンクールのことと結びつけて授業が出来たら、とても惹きつける授業が出来るとは思いませんか、強く思いました。と言うことで、今日はいい学びが出来ました。」

(拍手)

はい、二人目の方の話を聞いてもらいました。このことについて、何か感想や意見或いはこうしたらいいのではないかとというアドバイス等があれば言ってみてください。

はい、その方

男子学生B…「先ほどの方の話を聞いていて、落語でもあった、登場人物が母さんの時は言い方や言葉遣い変えていて、お母さんが出てきたのが、よく分かったです。早くも講義を吸収しているなど感じました。」

はい、大変素晴らしい感想だったと思います。それは、お話の中に間接話法としても、違う登場人物が出てくる場合、それなりに演じ分けたり、ト書きをつけて、これは誰々が言ったのですがね。と言うような言葉をつけて説明をしないと、聞いてる人は、いったいどういう状況なのかという臨場感はなくなくなってしまつて、話の内容が分からなくなってしまつて、話に迷うことになってしまつて、話に感じなくなってしまいます。そういうことから、今、人物が出てきた笑いが起こって来たということでは、話が確り届いたと言うことですね。

二人共ですが、マイクを確りと握って、直立の姿勢で話していた

のではなくて、話の途中で「私は先生になりたい」と言ったときには身振り手振りがありましたね。又、「粟ご飯」と強調したときも手の動きがありましたね。このようにすると、ダイナミックで、ただこう直立で話している人の話を聞くよりは、身振り手振りが入ってくる話が直線的に皆様に伝わる事ができるのです。このように相手に伝えたいと思うことが、手や表情に出ることは、素晴らしいことだと思います。

(質疑応答)

最後に今日の講義全体を通して聞いておきたいこととか、自分でこんなことを学んだと言うことでもいいです。率直な感想でも、また何か質問があればここで答えられることであれば答えますので何かあれば発言して下さい。

女子学生C…「お話を聞いていて、私は何時も話が一本調子になってしまつたという癖がありますので、もししたら魅力的な話が出るかと思ひながら聞いていたのですが、色々ポイントがあったと思います。どういう風に喋りの練習をされたのか。何かコツとか練習法があれば、是非教えてください。」

握って、直立の姿勢で話していた

私達落語家はほぼ落語の練習しかしないですね。つまり、落語を一度覚えませう。その覚えたものをお客さんの前で喋るので、覚えた落語を流暢につまりお客さんに届くように喋るとかできるという、そのお稽古、練習というのをするので、こうやって正直言うとお客さんの前で話していることを練習したことはないですね。でも、それは落語を練習している時に自分なりに培ったノウハウものがあるから、そして色々なところの高座へ行って、「枕」で色々な地域の方達そして色々な年齢層の方達とそして色々な経験をさせていた

だいて、その経験を踏まえて、あ今日失敗したから、同じようなパターンがあったら、こうやってみようとする中でイメージトレーニングしてみたり、それを勿論「枕」の部分で我が家の壁に向かって喋ってみてという事はあります。それでもほぼ練習していると言うのは、落語本来の本編のことのみとっていいのではありませんかと思ひます。

古典落語を高座に出したときに、お客さんがああ関係が無いやと思われなように、飽きられなように、今日は飽きられさせたいのか、導人が悪かったのか

握って、直立の姿勢で話していた

などか、或いは今日はお客さんの年齢層に今日の話の素材というのはあまり受け入れてもらえなかったかなという点などを反省したり、または、あの所で台詞を囁んでしまつて、あそこで一遍にお客さんの集中力が切れてしまつたのだなどはっきりと原因が分かる時もあります。

それはその都度、自分で直しながら考えながら、あそこは早過ぎたから、次はゆっくりしてみよう。あそここのギャグの所が受けたから、最も受けるようにしようとか、その為には、その前を聞いていてもわからないとそのギャグは受けられないから、その前を聞いてもらうためには、会話が会話として成り立っていないといけないので、もう少し活気を付けなければいけないな、等を考えています。

それはどういふ風にするのかと言うと、自分で舞台の袖に機材を置いて、録音しておいて、高座

握って、直立の姿勢で話していた



が終わったら、聞いてみて、ああこれは人物が描かれていないのではないかな、これではお客さんが飽きるよなおもつたら、そこを改善します。また、自分がおもっているよりも随分早口なのだなあ、やっぱり人前に出ると何時の間にか、テンションが上がって早口になるのかなあと、今度出るるときには、ずっと遅くしようと考えたりするため、自分で録音して、自分のことをふり返ることがあります。

それから、練習とそれにおける準備をすることをしますね。例えば、今日は落語家の私としては、特殊な話になりますので、今日の話をするに当たって、イメージトレーニングをかなりしました。どのように話をするか自分の思い、経験が伝わるかなと自分なりに考えました。前回、五年前に同じように講義したので、その時の様子はどうだったのか等を思い出ししてみたり、今日に向けての準備をしてきました。それは、お話の内容の善し悪しを言われるのを考えることではなくて、準備を十分しておくことをしました。

前回はワークシヨップはしなかったのですが、今日は私の方からお話ばかりをしていますが、冗長な時間になってしまふ恐れがある

のではと思います、その反省に基づき、今日はワークシヨップというものをいれてしました。

質：女子「質問なのですが、私は教育実習で授業をしました。その時、導入が上手くいったときには、生徒が笑ってくれました。そこで自分も乗ってきて授業が楽しく出来ました。しかし、楽しいにもかかわらず出来なかつた時、私も授業も沈んでしまいました。その時の授業に影響してくるのですが、落語の方では、この様なとき、どのような心の入れ替え方があるのか、あれば教えて下さい。」

答「今のは、実践的な質問ですね。実際の所、お客さんからお前の話は聞きたくないと言うような表情をされるときがよくあります。私どもの落語にも、一人で演じるから、私以外、演出効果等、手助けも何もないですから、話が滑ってしまうと、自分で責任を取らなければいけません。全く誰も手助けをしてくれないのですから、だけでも持ち時間内は自分で自分の仕事をしなければいけないことです。言ってみれば、つかみが滑った時にはどうしようかと事前に考えておくことですね。また、このつかみは受けが悪いか

もしれないが、こういう風にもついていってみようとか、必ず受けると思っていたものが受けなかつたときは慌てますね。マニュアル的な仕事をしている人は、マニュアル以外の事態が発生すると急にフリーズしてしまうことがあります。要は想定していた以外の事が起こったときどうするかという想定を事前に考えておかないと、生身で人が話をするときに色んな事が起きるのでそれが対応するために準備の準備というものが必要になってきます。だから学校の先生はよくやっていますよ。尊敬します。」

質：女子「自分らしさを出すことは大切だと思います。自分のオリジナリティを出す為にはどうすればいいのでしょうか。」

答「私も愛媛大学教育学部に入学、卒業したのだから、子どもの頃には教師になりたいと一瞬思ったことがあるのですね。(会場爆笑)その気持ちはおそらく落語家としての私にも共通する部分がありますね。」

つまり、聞いている皆さんに伝えたいことがあったり、表現してみたいことがあったり、或いは感じ取って帰ってもらいたいものがあるのです。それは学校の先生としたら、教育の教科書の教材

研究だったりするのですね。落語家になった今は、その古典落語の面白さを伝えて皆さんに好きになつてもらいたいと、落語ってこんなに面白いとか、好きになつてもらいたい、その気持ちがあるの凄くあって、それがより面白くその落語を伝えるにはどうするかという自分を自分なりにああでもない、こうでもない色々考えている。その点で共通する点があるのではないかと思います。



私はよく高座に出るときに、国立大の教育学部を卒業し教員免許を持っている落語家として紹介されると、お客さんは反応してくれますね。学校へ落語の口演に行くとき、生徒さんに落語についてよく分かるような話をしてから、落語をしますが、生徒さんはよく聞き、よく分かってくれていて、おおいに笑ってくれますね。その時一緒

に参加していた先生方から、大変教育的だったですね。とよく言われます。この点が私のオリジナリティかもしれません。

想定外の質問が出てきました、一瞬緊張もしましたが時間が来てしまいました。人前で話すと言うことは当たり前のことなのですが、やはりふり返ってみますと、聞いて下さっている皆さんの立場になって考える気持ちになって考えると、自ずと話も早口にならないでしょうし、伝わるような話し方をその都度その都度していくのではないのでしょうか。それから、聞き手が子どもの場合、大人の場合、お年寄りの場合と場面はいろいろありますが、その時その時に相手の気持ちになって、相手が聞いた話をしてから、聞きたいと思うネタを選んでしているのではないかと思います。

だからそれは全体的にも言えることで、「人前で話をする」ということは、相手の気持ちになる。聞いて下さっている皆さんの気持ちになる」ということが、とても当たり前のようですが重要なことだと思っています。今日の講義は以上で終わりたいと思います。最後まで熱心に参加して頂きありがとうございます。

学部最近のニュース

愛媛大学教育学部教育諮問会議を 開催しました。

【九月二日（火）】

平成二十六年九月二日（火）十四時〇〇分から教育学部長室において、愛媛大学教育学部教育諮問会議を開催しました。

- (1) 本学部の教育活動、研究活動、地域貢献、学部運営の改善に向けた取組に関する事
 - (2) 本学部の将来計画に関する事
 - (3) 本学部の自己評価の方法と結果に関する事
- について学外の有識者から意見を伺うものです。

委員には、愛媛県教育委員会義務教育課長・吉田慎吾氏、愛媛県小中学校長会会長（松山市立勝山中学校長）・越智真次氏、愛媛県



高等学校長協会会長（愛媛県立松山西中等教育学校長）・竹本公三氏、愛媛県PTA連合会会長・村上一郎氏の四人を委嘱しています。

当日は、四人の委員と教育学部から三浦学部長、佐野副学部長、浅井副学部長、太田副学部長、深田副学部長が出席しました。出席者の自己紹介の後、三浦学部長の開会挨拶に続いて、学部説明がありました。

その後、
○教育学部・大学院に対する評価について
○これからの学部・大学院の教員



教育学部教育諮問会議の様子

養成に求めるものについて
○学部定員の考え方について
○教育委員会をはじめとする地域との連携の在り方について
各委員から貴重なご意見やご指摘をいただきました。

本会議は、現在進めている教育学部・教育学研究科の改組計画を検討する上でも大変有意義なものとなりました。

教育学部 岡本威明准教授が 「Poster Award」を受賞しました。

【十月二十八日（火）】

平成二十六年十月二十八日（火）教育学部家政教育講座の岡本威明准教授が第六回アジア栄養士会議（The 6th Asian Congress of Dietetics 2014）の「食・栄養研究」分野で「Poster Award」を受賞しました。

このアジア栄養士会議は、アジア栄養士連盟の主催により、四年に一度開催されるアジアの人々の食生活に立脚した、アジア人のための栄養のあり方と実践活動を検討することを目的とした国際会議です。平成二十六年は千九百九十二人の参加があり、健康寿命が世界トップクラスの日本は、参加国の中で台湾に次ぐ百七十二人が参加しました。

高知県立大学健康栄養学部田中守助教との共同研究です。

本研究では、ラット好塩基球様細胞株（RBL-2H3）から脱顆粒をヒスチジン含有トリペプチド（HAQ）によって抑制し、その効果を卵アレルギーモデルマウスで確認しています。従来の抗アレルギー薬に替わる安全性の高い抗アレルギー薬が期待されます。



賞状

**教育学部の安積京子講師が
ドイツでピアノコンサートに招待され、
出演しました【八月十日(日)】**

教育学部音楽教育講座 安積京子講師がドイツでピアノコンサートに出演し、南ドイツ新聞(Süddeutsche Zeitung) ドイツを代表する新聞のひとつで発行部数は四十四万部)から高く評価されました。

このコンサートは、ドイツ南部・バイエルン州・ミュンヘン郊外のゼーフェルト市にある有名な「ゼーフェルト城」にて開催されました。

主催は、安積講師が二〇〇七年から所属しているドイツのプロの演奏家が所属する音楽事務所「ミュンヘンピアニストクラブ」です。同クラブは一九九七年に設立され、現在約三十人のヨーロッパで活躍するピアニストが所属し、約三百人の会員がおり、ミュ

ンヘンを中心に有名なコンサートホールやお城などで、年に約三十回のコンサートを企画しています。

今回のコンサートのテーマは、「ロマンティックな夏の夜」。このコンサートで、安積講師はショパンの作品を演奏し、南ドイツ新聞の短評論で高く評価されました。

【以下、平成二十六年八月十二日(火)の南ドイツ新聞の抜粋】

…最後に、日本人の安積京子の心を奪われるような演奏がなされた。彼女はショパンの作品を神経細やかに作り上げてピアニストとしての見事さを示した。ワルツ変イ長調作品34は躍動豊かに、作品69は上品でほのかに輝き、夢にひたっているような哀愁に包ま

れ、両作品はロマンティックの雰囲気を感じたり表現していた。それらとバラード作品38との間での感情の競いをし、激烈な妙技と、くつたくなさぬ歌曲性の後、拍手喝采とともに真夏の夜は熱狂的に締めくくられた。

……

ラインハート・パルマー筆
(翻訳・出射映子、ドイツ公認翻訳者)



ゼーフェルト城の演奏会風景



ゼーフェルト城



「教材研究プロフェッショナル講座」案内

愛媛大学教育学部は、「地域に立脚する大学」という立場で、教育実践現場と連携・交流し、よりよい双方向的な関係を生み出すことを願っています。その考えに基づいて、同学部は、地域の教育研究・実践の充実・発展、教員養成・教育研究の充実のために、相互に連携協力する旨の覚え書きを、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、今治市教育委員会、東温市教育委員会、伊予市教育委員会、松前町教育委員会と取り交わしてきております。その趣旨は、愛媛大学教育学部が立脚する地域全体を視野に入れるものです。

同学部は「地域と創る教師の成長物語」というテーマの下、教員養成と地域との交流に取り組んでいます。これは、教育学部入学の教員養成段階から、教員となつて後、現場を離れるまでの、生涯にわたる教師の力量形成をどのように保証していくか、また、教育学部として何ができるかを考え、学校現場を軸とする地域との連携による具体的なプロジェクトとして推進しています。

そこで、学部は教科内容学を専門的に研究する教員中心に、授業と関連させて講座を開設しています。

職場だより



坐辺師友



久万高原町
直瀬小教諭
玉井 優子
(平一六卒)

今回、同窓会報の原稿執筆という大役を賜ることになり恐縮しながら書いています。しかし、これまでお世話になった先生方へご挨拶するよい機会ととらえ近況をご報告したい。

講師二年、採用から二年を終えて久万高原町立直瀬小学校で勤務することになった。内示を受けた時にはどこに位置するのかわからなかったが、前任校には、直瀬中学校（現在は廃校）で勤務経験のある先生がおられ、「直瀬はい所よ。」と大鼓判をいただき、心配や不安が薄らいだ。二週間後には饞別としていただいた掃除機とポット（一人暮らし用品）を携えて無事着任することができた。

そして今年、三年目を過ごしている。

現在、直瀬小学校は全校児童十五名、一・二年、三・四年、五・六年の完全複式学級の小規模校である。それまで一クラス三十人の学級で授業をしていたため、四人の児童と学習するということは大変難しかった。「どの子どもにも目が届いていいじゃないか」と思われるかもしれないが、見え過ぎるのも困りものなのだ。なにしろ教室に四人なので、困っている児童はすぐ見つかる。あとはちょっと助言すればいいだけなのだが、いやいや子どもたちには試行錯誤する権利があるのだからもう少し見てみようかと待ってみる。「先生助けてくれないかな。」という子どもの目線や仕草を感じながら、いつ助け船を出そうか、思案する毎日が続いた。

方など、無意識のうちに友達の意見から多くを学び、吸収している。「どうしたら子どもたちが多様な意見に触れることができるだろう」と悩んでいたが、愛教研上浮穴支部へき地部会の研修会で「教師がいろいろな意見を提示する」という助言をいただき、早速教室で実践することにした。子どもの考えを揺さぶる新たな意見を提示しているつもりだが、時々私の口調の変化から、間違った意見だと子どもに看破されてしまうことがある。もっと演技派女優を目指さないといけない。

さて、題名を「坐辺師友」とした。北大路魯山人の言葉で、「自分の身辺にあるものが、自分の師であり友である」という意味だそうだ。生活空間、環境によって人は作られるということらしい。私は、三年住んでみて直瀬の環境は最高だと胸を張って言える。豊かな自然環境はもちろんだが、一番は人的環境だ。普段は田んぼとビニールハウスばかりで人の姿が見えないが、学校行事や地域行事には「直瀬にこんなたくさん人がいたのか」と思うくらい多くの人がある。そして「子どもたちのためならやっちゃうけん、何でも言うてよ。」とありがたいお言葉をいただく。草刈りにしても田植えにしても、達人の技は見えているだけで心地よいし感嘆するものだ。

学校のために協力してくださるだけでなく、直瀬の方々には子どもたちのよい先生でもある。とにかく褒め上手なのだ。夏休みのPTA行事のバスレクでは、お母さん達が子どものクイズの答えが全然違っていても「おしい！」と場を盛り上げる。年末のしめ縄作りで、上手とは言い難いしめ縄を見ても、「おお、できたじゃないか。」と褒める。「先生、上手じゃないの。」と、私も褒めにあずかり、気がついたら地域の婦人会バレーに顔を出すようになっていた。褒めることの効用を、身をもって体験することになった。

大人だけではなく、子どもからも学ぶことはある。総合的な学習の時間に行く野菜作りのリーダーは子どもだ。「なんでトマトのおしりが腐るんか、ばあばに聞いてきました。」と私に教えてくれる。「なんでやったん？」と私は聞き役。今年も彼のおかげでたくさんトマトを収穫することができた。

地域の方々との密なかかわりの中で、私は自分の学びを実感する。それはすぐに明日の授業に生かされるものではない。しかし、学びの中にある喜びや楽しさは、学びたいから教員になった、という原点を思い出させてくれる。教員である前に一学習者として、身の回りの環境からこれからも学んでいきたい。

最後に、この三年間で私が飛躍的に上手になったことをお知らせして終わりたい。それは「お願い術」である。協力してほしい時、分らないから教えてほしい時、代わりにやってほしい時（！）など、頃合いを見計らって然るべき相手にお願ひに行く術である。決して厄介事を押しつけに行くわけではなく、前述のように一学習者として真摯に教えを乞うているのだが、「あの、お願いがあるので……。」から始まる「お願い」は上司や先輩を緊張させるらしい。早く一人前にならなくてはならない。

久万高原町直瀬
791-1213
甲三九七四一三

幼小中合同運動会



大洲市 河辺小教諭 熊井 崇 (平一卒)

今回、愛媛大学同窓会報の執筆を依頼されました。快く引き受けたのはよいものの、他人に語るほどのことはあまりしていないと感じ、何を書こうか困っているのが現状でした。ただ一つ、教師生活をこれまで送ってきた中でたくさんの方々を支えられてきたことは間違いがなく、今でも感謝をしています。

今年度より大洲市立河辺小学校に赴任しました。河辺小学校は山あいにもまれたへき地の学校です。児童数は二十名と少人数です。アットホームな雰囲気です。私は、現在、五・六年生八名の複式学級を担任しており、授業では各学年が別々の内容を同時進行で学習しています。以前勤めた学校でも複式学級を担任したことがあります。慣れないうちは思うように授業を進めることができませんでしたが、その当時に比べれば、授業を大分スムーズに進めることができるようになったと思います。また、小規模校で教職員数も少ないため校務分掌も多くなり、様々な仕事と日々格闘しています。

さて、今年度は天候にも恵まれ、河辺幼小中合同運動会が九月二十一日(日)に盛大に開催されました。合同で運動会を行うのは、今年度初の試みで、前年度の引き継ぎで決定していました。前任教でも同様の合同運動会を実施しており、縁があります。そして、体育主任としての自分のこれまでの経験を河辺小学校で少しでも生かすことができればという思いもありました。また、河辺地区には、地域住民のための運動会がなく、地区で行われる運動会はこの一回のみとなりました。それだけに地域住民の期待は大きいように感じました。

実施に当たっては、困難もありました。それは、小学校のグラウンドが非常に狭いため、中学校のグラウンドで行われることです。しかも、小学校から中学校のグラウンドまでは三・七キロ離れており、小学校教職員も総出のバス移動になります。小学生が運動会当日に別のグラウンドで演技をする際には、様々な配慮が必要になります。特に、低学年の児童にとっことは、環境が変わることとまどいことが多いと予想されました。そこで、教務主任を中心として綿密な練習計画を作成したり、毎日の児童の輸送や練習道具の運搬等も河辺小教職員のチームワークの良さで乗り切りました。また、当日の効果的なプログラムの作成や準備・後片付けの段取り、係活動の小中でのすり合わせなどの課題についても、中学校と綿密

な打合せを行いました。

そして、いよいよ運動会当日。幼稚園児はかわいらしさを、小学生は元気よさを、中学生は力強さを発揮し、精一杯の演技を見せました。小学校の伝統として続いている鼓笛では、児童が移動場所を間違えることなく、立派にできていたように思います。また、同僚のI教諭が中心となって全校児童を指導し、ダンスと組体操をコラボレーションさせた表現「河辺っ子☆タマシイレポリューション」も披露しました。その中で、なかなか決まらなかった技「レインボーブリッジ」も無事に成功を収め、児童の頑張り心に打たれました。多くの児童の感想の中にも、「心に残る運動会になった。」と記されていました。また、保護者や地域住民からも「よい運動会だった。」という声をいただき、ありがたく思っています。今回の運動会を終え、ほっとするとともに温かい気持ちになることができました。

この合同運動会を通して、これまでなかった幼小中の連携が多く見られました。小学生が練習で中学校へ行ったりときにはグラウンドが整備されており、ラインもしっかり引かれていました。また、小学生が座るときのためにブルーシートが毎日敷かれていたりなど、細かな配慮もありました。さらに、中学校の先生には、これから入学してくる小学生のことを知ってもらえる良さがありました。また、小学生は中学生の主体的に準備する姿などを見て、学ぶことも多かったように感じます。

教職員の反省の中では、子どもたちの頑張りや教職員の連携などのよかったところも、来年度に向けての練習計画や当日の運営についての課題も、どちらもたくさん出てきました。そして、私にとっても、運動会の在り方や意義を考え直すよい機会になりました。来年度に向けてよりよい運動会になるよう、幼少中の教職員と協力しながらさらに進めていきたいと考えています。

備する姿などを見て、学ぶことも多かったように感じます。教職員の反省の中では、子どもたちの頑張りや教職員の連携などのよかったところも、来年度に向けての練習計画や当日の運営についての課題も、どちらもたくさん出てきました。そして、私にとっても、運動会の在り方や意義を考え直すよい機会になりました。来年度に向けてよりよい運動会になるよう、幼少中の教職員と協力しながらさらに進めていきたいと考えています。



表紙作品について

○作品タイトル
「白梟の滝」

○写真の俳句
 冬日差し白梟の滝光りをり
 聖寿

撮影並びに作句者
矢野 聖 寿
 (昭四八年度卒)

○撮影日
 平成二十三年一月三十一日

○場所
 東温市の白猪の滝にて

○作品の解説
 この作品は、平成二十四年の個展に出品した作品で、東温市にある白猪の滝の凍結した様子を撮影したものです。流れ落ちる水が、滝の岩肌凍りついて無数の氷柱ができ、滝の上部に突き出た岩が目となって、まるで白梟が木に止まっているように見えました。

○経歴
 ・平成二十三年と平成二十四年の秋の県展(写真の部)に二年連続で入選。
 ・平成二十五年二月より日本風景写真協会に入会、会員として現在に至る。
 ・平成二十三年より毎年写真俳句の個展を開催、以来、平成二十六年までに四回の個展を開催、現在に至る。

たくさんの出会いに

感謝して



八幡浜市 八代中教諭 竹上 広子 (昭六〇卒)

私のことを、「宮田広子」とフルネームで呼んでくださる方が二人いる。

一人は、私が新採として赴任した中学校で、教務をしておられた一色吉三先生だ。辞令交付式場まで、遠くからわざわざ出迎えてくださり、あと二人の初任者の先生と共に、胸弾ませて中学校へ向かった。ところが、その車の中で言われた言葉に耳を疑うこととなる。「よう来てくれたのう。ここで三年勤めることができたら、どこでもやっていけるけん。何があつてもやめるなよ。」

大学を卒業し、期待でいっぱい私にはその意味がよくわからず、それでも教師として迎えていただいたことの方がうれしくて、うきうきしていた。校内を案内してもらいながら様子を見聞きし、じわじわとその意味を知ることとなる。その頃のその中学校は、とても荒れていた。その渦中に私たち三人はお世話になることとなったのである。ちなみに、あと二人の先生は、空手と柔道の経験者で、新採ではないが、もと警

察官から転職されたY先生も一緒に赴任していた。常々、「何があつても技は使うなよ。」

と言われていたような記憶がある。技も教師としての力もない私に、生徒は、年が近いというだけで親しみをもって近づいてきてくれた。びっくりするような情報もあつさりと漏らすので、校長室へ駆けて行ったこともある。興奮する生徒を前に、教師としてどのように対処すればよいか、私は見て学んだ。毎日が実習だった。大学を卒業したての私に、先生方は一から百まで教えてくださった。一色先生からは、はんこの掃除の仕方も学んだ。

「紙に輪ゴムを置いて、こうやってはんこをこすりつけたら、きれいにゴミが取れるんぞ。」

と、実演してくださったことが忘れられない。今でも私は、大事な印を押す前には、その方法で掃除をしている。また、

「ええか、宮田広子。生徒指導で困つたら、その子の家へ足を運ぶこと。どんな子でも、自分の家へ来てくれたらうれしいもんよ。」

とも教えてくださった。三年目に私は、四十四人の三年生を受け持ち、教室で荒れがちなH君に手を焼いていた。次の日、私がH君の部屋を尋ねると、照れくさそうに、自分の気持ちを話し始めた。自分がいかに生徒を理解していなかったのがよくわかった。H君は、高校へは進学できなかったが、少しずつ落ち着き、社会人と

なった。今はもう四十歳を越え、トラックの運転手として働いている。二児の父親にもなった。ときどき、酔っ払っては電話をしていく。素では照れくさいのかもしれない。いつも中学生のときの自分を詫言るので、

「もういいよ。社会人として頑張つとることが先生はうれしい。」と答える。今思えば、一色先生は、私が困っていたことをご存じで、アドバイスをくださったのだらうと思う。生徒指導で忙しい中、若い教師を見守り、さり気なくたくさんのことを教えてくださったことに感謝している。

現在、私は八代中学校に勤務し、一年生を受け持っている。入学時小学生のようだった一年生が、上級生の姿に学びながら、少しずつ成長していく様子を見るのはとても楽しい。今も、すばらしい先生方の姿に学ぶことがたくさんあり、刺激を受けている。生徒、教職員共々尊敬して止まない井上靖校長先生のもので、その一員として働けることは幸せなことと感謝している。

私をフルネームで呼んでくれるもう一人の方は、愛大教育学部教授の牛山眞貴子先生である。三十年前、私がモダンダンス部四回生のとき、眞貴子先生を顧問にお迎えした。体を解放して伸びやかに踊る姿に、私たちは今まで経験したことのない新しい風を感じ、すぐさま魅了された。大街道の真ん中で、四十人あまりで素足で踊つ

たとき、お客さんがびっくりしていた。卒業後、ラフォーレ松山で、先生とOGの四人で踊つたとき、「MOGA」というグループ名を付けたことも懐かしい。それから眞貴子先生のご活躍の様子は、みなさんよくご存知だと思う。

今年十二月に、ひめぎんホールにて三十周年記念公演が行われる。二十周年記念公演にも出演したが、今回も出ることにした。なぜなら年長組として、ずっと先生や後輩たちに寄り添いたいと思うからだ。同じ思いのOG・OBはたくさんいて、いつも大勢のメンバーが集まる。この前の練習では、大学一回生もいて、そのまぶしい若さに目が眩みそうだった。そして、その子たちが涙ながらに語るダンスへの熱い想いを聞き、感動した。ダンスへの想いは、三十年の時を経て、何も変わってはいない。年々、小・中学生が幼く感じられるように、大学生も少しだけ幼くなつていて、ご指導は単位や生活のことにも及び、大変かもしれない。しかし、厳しくも温かく、距離を置いて見守られている先生と、やはりダンスが大好きな後輩たちのことを、私たち卒業生はどこにいても応援している。ダンス部は、私を作ってくれた場所だから。大切な仲間を授けてくれた場所だから。今でも、会えばいつも、「宮田広子、元気ー！」

とギューッと抱擁してくれる先生が大好きだ。豊富なボディと美しい笑顔に安心する。愛大体育館二階にあるダンス場へ行くと、私はなんだか原点に戻れる気がする。あのスプリングの効いた床の感触や懐かしい匂い、ずっと学生を見守り続けている壁一面の鏡。ここで、私はダンスの楽しさを教えてもらった。私の根っこには、あの日々がある。

運動会では、中学生とダンスを楽しく踊った。八幡浜市の「てやてやウェーブ」では八代中チームで参加した。「てやてや音頭」には、地元の商店街チームで踊り、念願の優勝を果たした。里の盆踊りでは、二時間は踊り続ける。時間があれば、細々と主人と社交ダンスのレッスンにも通っている。どんなジャンルの踊りも楽しい。これからも、体が動く限り踊っていたいと思う。

大学を卒業し、教師となって早三十年目。残りの教員生活は少なくなつたが、学ぶことはまだまだたくさんある。周りの人に感謝しながら、初心を忘れることなく動んでいきたい。



第十九回愛媛大学教職員作品展が開催されました。
 ～教育学部女性スタッフ陣制作
 「光り輝き奔放流 ビーズ作品」も
 紺一点が花を添え出展～

愛媛大学教職員作品展は平成八年（一九九六年）に開催されてから、今年で早くも十九回を迎え、出展数、内容ともに益々充実してきています。その作品展が、今年度は十一月十三日から十七日まで（十六日は休み）愛媛大総合メディアセンターで、一般公開されました。

多才で多彩な作品作りが出来る多士済々の我が教育学部女性スタッフ陣、昨年に引き続き、今回の出展に際して、「チーム教育総務女子力」の絆を強く、より輝かせていくために共通作品をとの思いが一致し、女性スタッフ陣のパワー溢れる見事な「ビーズ」作品が出展されました。

制作に当たっては、昼休みを有効活用し、ゆっくり、じっくり、お互い情報交換をし、作品を見せ合い切磋琢磨し計画的に時間をかけて制作していました。

そこは、個性的で創造性溢れるスタッフの面々。聞くところによると、制作上の共通した心構えは、「光り輝き奔放流」を旨とし、共に教え合い、助け合い、支え合う

協働の心でもって楽しく明るく和気藹々と作品を創り上げていくことを心がけたそうです。

作品を創るに当たってのお気持ちを聞きすると、そこには愛する家族への思い、親しい友人への思い、そしてかけがえのない自分自身への思いを込め、愛情溢れる温かい作品を創りたいとの言葉が輝いていました。

だからでしょうか、作品は、個性的な形といい、色合いといい、実に変化に富んだ、ブローチ、ネックレス、ペンダントと種類も豊富、見事なプロ級の芸術作品に仕上がっていました。

今回、出展に際しては、男性陣から、独身、スポーツ万能、明朗快活なイケ面のFさん（目下花嫁募集中）が、折り紙で見事な花を折り、紅一点ならぬ紺一点として作品群に華を添えています。

また、会場は大学職員、学生の絵画や書道、華道、手芸、留学生や放送大学受講生が絵付けに挑戦した砥部焼、小中高の児童生徒の俳句、など計百十五点が展示されていました。





俳句

句集より



加藤 敏史 (昭三六卒)

よく人から「忙しいのによく俳句を作る時間があるね」と言われるが、わざわざ時間をとって句作りするのではないので、忙しさにはあまり関係がない。何かを見たり、聞いたり、感じたりした時に瞬間的に句が浮かぶのである。ただそれだけである。浮かぶと言う事はすぐに消えること、したがってすぐに句帳などに書き留めておかないと、後から思い出せることはめったにない。そんな句ほどこい句であった気がしてならない。幻の名句？である。この度の寄稿依頼にその名句を紹介できないのが残念であるが、古希記念として数年前に出した句集「春夏秋冬」から季節ごとに五句ずつ拾い出してお茶を濁させて頂く。

春
麗らかな春日一転小夜風

万本の桜並木の落花踏む
千年の古木に垂るる藤の花
路地裏の小さき鉢に大牡丹
庭石の黒ずみて知る春の雨

夏

汗拭かで摩文仁の丘の碑に対す
雨脚の増して大虹薄れゆく
標高二千畝境を飛ぶ夏燕
羅を着れば清しき肌ざわり
滑床を涼しき水の滑り来る

秋

芋炊きの賑ひ風が運び来る
料亭の古き庭隅萩こぼる
新涼の朝ネクタイを軽く締め
育て来し大輪の菊開き切る
小春日の高嶺に誓子句碑拝す

冬

鶴鶴チチと小走る冬河口
新しき畳踏みしむ冬座敷
地崩れの山は眠らず年明くる
鴉一羽黒一点の雪の原
手水鉢水かすかに動きしか

(☎) 779-0711 四国中央市
土居二一七五

短歌

水の章

附属特別支援学校教諭
井上真佐子 (昭六二卒)

あづまやに雨宿りしつしは
らくは樹に降る雨の音を聴き
をり

蟹座生まれのせい、雨や水辺
など水に関わるものが好きだ。お
天氣の日は嫌いなわけではもちろ
んないが、雨が降ると、なぜかほっ
とするのも事実である。

とほとほとひつじぐさ咲くほ
とりまで歩みてきたり人を離
れて

水辺といえば、道後公園の睡蓮
を初めて見たのはいつだったろう
か。

水底に眠る根あらむまひるま
を夢見るやうに咲くひつじぐ

さ
ひつじぐさ咲く水ぎはに佇み
てうつつにあらぬ風に吹かれ
をり

水面に咲く白い花は真昼の夢の
ような、何か日常とはかけ離れた
もののように思えた。

水張田は空を映して広がりぬ
水の中にもかよふ風あり

田植え前の、水が張られた田ん
ほのことを「水張田」という。目
の前の水張田の上にも、水張田に
映りこんだー現実にはないー空に

も、同じ風が吹いている。そう感
じた一瞬を歌にしてみたのだが。
あと一滴そそがれたなら溢れ

だすあやふき水は胸に溜まり
て

人間の身体の六割は水できて
いるそう。どうやら私は人より
も若干、水分量が多いらしく、そ
の分だけ身体の外に排出されや
すいようだ。(涙もろい、ともい
う。)

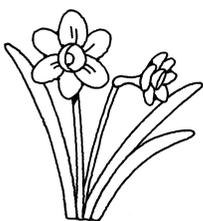
雨降れば水に沈むといふ橋の

いつより架からむわれの内に
も

沈下橋、という橋があると聞い
た。雨が降り、川が増水すると沈
んでしまう橋だという。あちら側
とこちら側をつなぐ、という橋本
来の機能から考えれば不完全なよ
うにも思えるが、「時に渡れなく
なる橋」というのは何かの比喩の
ようでもあり、心惹かれるものが
ある。どんな橋なのか、一度見て
みたいと思う。

雨や水辺、水をめぐる風景。そ
れらが私にとって、心を潤すもの
であることは間違いない。

(☎) 790-0813 松山市萱町五丁目
十一一八



川 柳

黒 幕



上田 千鳥
(昭二四愛師研卒)

黒幕はいない日向の蟻の列

黒幕の笛でトップが踊ってる

黒幕にはトップ支えた自負がある

黒幕の指示どおりにする謝罪

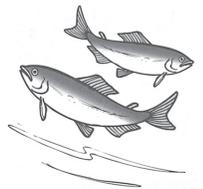
土壇場で黒幕ちらり顔を見せ

ひと呼吸すると拳もゆるみだす

美しい真鯛へ雑魚は憧れる

フィクションの世界で独り遊んで

る



子がつくるスマホ依存の小宇宙

幼児のつぶやききれいな詩になりました

もつたないもつたないと肥満
体

割り切って私の色で生きていく

再会へ躍る女の化粧筆

追伸の細字に母の息遣い

八十路越えまだまだ趣味の灯を燃
やす

(☎) 790-0853
松山市上市一丁目
一十九

水 墨 画

墨 色 を 楽 し む



三好 靖子
(昭三三卒)

筆全体に淡墨、穂先に濃墨を含
ませてなじませると筆の中に三墨
が生まれる。こうした筆づくりが
程よくできた時の墨色は、実に美
しい。和紙に広がるその墨色に出
会うと心が洗われるようで楽し
い。

その一筆の墨を掠れてくるまで
使い切る。そこでは味のある墨の
かすれを楽しむことができる。渴
筆と潤筆の墨色を自由自在に使い
こなすことが出来れば、思うよう
な空間が描けるかもしれない。

脱写実のための省筆をし、余白
が意味のある構図に仕上げていく
達人の運筆を見習いたいもの。そ
れができる水墨画の時間は楽しく
貴重なものである。

とことん墨色を楽しみ、とこと
ん墨色を生かしてみたい。



先輩を偲ぶ



林傳次先生遺稿集

「把翠」を繙く(十)

「巻頭言」集 『愛媛教育誌』より

【親切第二】

最近某小学校児童の中から十数名の万引児童が発見せられた事は、我々に幾多の考察すべき材料を与へた。学校教育について、家庭教育について、更に現代の世相が児童に及ぼす影響について。

凡てを通じて先ず思ふことは児童に対する親切の欠乏である。児童の一言一行に不断の注意を払ひ、些かの変化でも之を看過しない丈の親切が教師にあつたならば、生活の興味が学習以外に移つた彼等児童の態度の変化を見逃しはしなかつたらう。また子に対する親切がもつと父兄にあつたならば、彼等の所持品や、或いは夜更けまでの外歩きから、もつと早く気附いたに相違ない。

学校が大きくなるに従つて、教師と児童との間柄が、事務的に流れて魂と魂の交渉が失はれ勝であり、生活が複雑になればなるだけ、子供の為に心を配り得る時が、親から奪はれ勝である。之は止むを

えざる事実には相違ないが、それだけ教師や親に之に処する心の用意があつてほしいものだ。少なくとも一学級を担任する教師には、もつと子供を見詰める親切が望ましい。実験室に於ける化学者が微細なる変化をも見逃すまいとするあの鋭敏な態度や、終夜望遠鏡から眼も放たずに天体の運行を観測する天文学者のあの熱心な心持が、今我々の社会にあつたらと

いつも思ふ。
子供に対して本当に親切であつてほしい。訓育も知育も体育も、児童に対する親切が若し教師に欠乏してゐたら、到底十分の効果を挙げ得る事は出来ないのだから。
(昭和三年二月号)

【サムシング・アバウト・エブリシング。エブリシング・アバウト・サムシング。】
これは新聞記者の心得ださうだが、我々人の子を教えるものもまたさうありたいものだ。即ちあら

ゆる事について何ほどかを知り、或る事についてはあらゆる事を知つてゐる様でありたいものだ。普通教育の目標が専門家の養成に非ずして、人としての円満なる発達を欣求するものである以上、教師自らが偏つた人であつてはならない訳だ。単に知的方面のみについて見るも、文科的方面には興味があるが、理科的方面には全然興味がないとか、数理的方面には長じることが芸術的方面には全く理解がないといふ様であつてはならない。あらゆる教科について充分の知識は望めなくとも、少くとも理解と興味だけは失つてはならぬ。

即ちサムシング・アバウト・エブリシングの必要な所以である。
が一方では相当の自信を有するものがあつてほしい。少くとも学校の教師として或学科に対しては何人にも劣らないといふ自信がある程でありたい。そこにその教師の存在の真の理由があるのである。エブリシング・アバウト・サムシングの必要な所以がそこにあらう。

中等学校方面には前者が欠け、小学校方面には後者が乏しいのであるまいか、敢て読者諸君の三省をまつ。
(昭和三年五月号)

【ウエルズの教師評】

「これらの学校の教師は、学者ぶつた、元気の萎縮した連中だつた。もともと貧弱な教育しか受けてゐないそれらの教師達は、大学に於いてこれといふ賞与を得る力もなかつたし、また自力を以つて大社会に打つて出て一つ大いに羽を展さんといった風の勇氣を持たなかつた。彼等は自分の受けてきた教育と訓練との価値を誇張して考へ、もつて自己の劣弱感を無理に抑へてゐた。彼等は、自己の微弱なる能力で達せられる範囲のケチな浅慮の正鵠を尊信して、自己に欠けてゐた把握の力に就いては眼を閉ぢてゐた。彼等の野心は精々牧師の職に在りつくとか、校長の地位にのぼるとか、ござつぱりした家屋を手に入れるとか、氣の利いた妻を持つとか、威厳がそなはるとか、生活の保証が得られるとか、仕事がらくだとか、方程式の解き方がうまいので人気を得るとか、ラテン語やギリシア語の作文が上手で人気を得るとか位で、その頂点に達してしまふのだつた。現代思想をば、これらの豪い教師達は、いたく軽蔑してゐるのだつた。」

早合点をして憤慨してもらつては困る、これは我国のことではない。遠く海を越えた英国の、しかも三十四年前の教師に対して、一世の奇才エッチ・デー・ウエルズが、その著「偉大なる校長物語、即ちアウンドルのサンダースンが生涯と思想との平明な叙述」の中で下した辛辣なる批評である。然し、他国の而も昔の事だと簡単に見逃してしまふには少し惜しい氣もするのではないか。
(昭和三年六月号)

祝・受賞

(平成二十六年十一月三日)

☆県教育文化賞

田鍋 修 殿

松山市朝日ヶ丘二丁目一三
(昭和四十一年卒)

祝・叙勲

(平成二十六年十一月三日)

☆瑞宝双光賞

教育功勞 松田隆和 殿

伊予市稲荷甲一三二一四
(昭和四十二年卒)

教育功勞 森 晴光 殿

松山市余戸西五八七
(昭和四十三年卒)

教育功勞 柳垣利行 殿

松山市衣山二八一十六
(昭和四十三年卒)



会員の声

久万高原 遊山会の窓から

古田 隆
(昭三四卒)

久万高原遊山会は十三年前に産声を上げた。町村合併をしたり、山歩きの性格が変わったりして、会名は何度か変更をしたが、目標は変わっていない。①健康作り②仲間作り③生きがい作りである。月一回の日帰り登山

中心にしているのは、月一回の日帰り登山「例会」であるが、もう百三十回になるのか。地元の自然の良さを堪能するのを第一にしながら、愛媛県内はもちろん高知・徳島・香川にも足を伸ばす。一回



二千五百円から三千円の参加費を出しての参加である。会員は六十名弱であるが会員外の特別参加もある。その方々が雰囲気がいいからと会員になってくれる方もいる。下見は毎回数人でやっている。無事故を誇っている。



地元の登山道整備

それ以外の事業は、いくつかやっているが、第一には、地元久万高原町内の山の登山道整備である。①石墨山(一四五六m)②五代ヶ森(一七一三m)③桂ヶ森(一二二四m)④皿ヶ嶺(一二七八m)等をやってきた。

石墨山は、完全な久万高原町の山、皿ヶ嶺も大部分は久万高原町分である。これらの皿ヶ嶺連峰が近年「東温アルプス」と呼ばれるようになってきている。わたしど

もは「皿ヶ嶺連峰」の復権強化を図りたいと考えている。

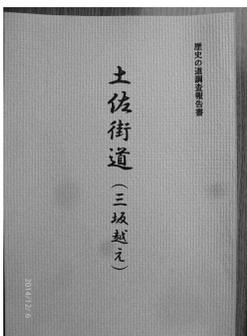
五代ヶ森は、原始林と笹原に覆われた山、独立峰の高さも、堂ヶ森・二の森・石鎚山・岩黒山・筒上山・伊予富士などの大展望も開ける。この山が四国百名山に入っていないことが悔しい。これには二日間延べ二十人の参加で道づくりをし、帰宅は夜十時を過ぎたりした。その後、坂瀬の林道から頂上直前の尾根にたどり着く新しい道を発見、道を整え例会も実施した。

歴史の道を掘り起こす

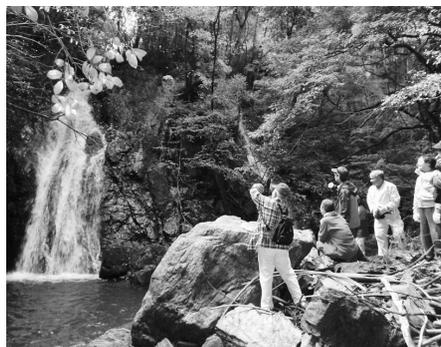
第二には、歴史の道を掘り起こして後世に引き継ぐことである。松山札の辻から三坂峠を経て高知に至る道で、藩政時代のもの



は久万高原町内で六里石から十二里石まで七基全部残っている。これらは調査報告書にまとめるとともに、標柱をつけ実踏の一助にと思っている。高知県境に近い二箇の国有林が残っているが近く実施の予定である。



ストーリーのある遺産
第三は、歴史文化遺産の発掘であるが、久万美術館蔵品『久万山真景絵巻』に描かれた幕末久万山の風景の特定とそこへ案内する



ツアーを仕掛け案内した。さらに中世古城趾の研究、藩政期の新四国・新西国の研究など手をつけ始めている。

これらの遺産や自然の中に、私たちはストーリーを紡いでゆきたいと思っている。一つの岩も滝も水の流れも何かを持ち、人々もそのたたずまいの中に畏怖を感じたり祈りを捧げたり慈悲や恵みを感じたり癒されたりしてきたのではなかったか。そこを通る村人や旅人たちの交感はどうなものであったろう。つぎからつぎへとストーリーは展開していく。

楽しみと生きがい

はじめに本会の目的に生きがいづくりと書いたが、かなりの会員にそのことは実現しつつある。山を歩きながらの語らいに、次回の例会の希望に、遊山会の事業の取

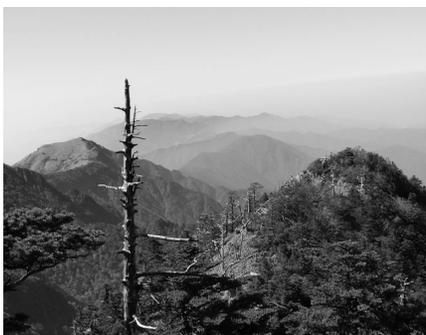
り組みに、地域課題の取り組みにと、話題の共有と課題の共有に相互が元気の源を確認している。わたしの教え子が十人もいて会の重要なポストを果たしてくれているし、愛大教育学部の同窓会の方も数人おられるのは、私にとっても、うれしいし楽しみなことである。

写真説明

- 一段 十年四月例会赤星山
- 二段 十三年十月皿ヶ嶺標柱立て
- 三段 土佐街道六里石 東明神 土佐街道調査報告書(久万高原町教育委員会扱い)
- 四段 十三年十一月真景絵巻ツアーで老僧淵を観察する参加者
- 五段 西の冠嶽手前から見た堂ヶ森・久万高原の山々

久万高原遊山会の内容は
(HP: <http://pyuzankai.sakura.ne.jp>)
参照

791-1206 久万高原町上野尻
甲三〇一一



見つかった卒業文集

「文京町三番地」(その一)

替地 和人

(昭四九卒)



還暦の同窓会を機に、昭和四十九年の春に作った「卒業文集」を探してみました。現役のときに、受け持った子どもたちと共に作った卒業文集のダンボール箱の隅から、緑色の色画用紙の表紙の「文京町三番地」と題した文集が出てきました。どうして作るようになったかは覚えていません。誰かに頼まれて編集委員になったようですが？まったくいきさつを覚えていません。当時の補導教官が「作文の会」の顧問をされておられた蒲池文雄先生だったので、かなりご助言いただいた記憶はあります。編集後記には、

も編集後記を書いている。しかし、未完成な我々にとっては、ふさわしい文集なのかもしれない。いつかはすばらしい「文京町三番地」ができあがることを楽しみに、そしてその時に、この本を手がかりに、また会えることを望みつつペンを置きます。空白のページに、あなたの人生をつづつてくたさい。忙しい中、時間をさいて原稿ならびに寄せ書きを書いてくださった先生方、編集に関して多大のご援助を賜った蒲池先生はじ



め、国語教室関係の方々のご厚意を心から感謝して、編集後記いたします。

とありました。当時の先生方の自筆の寄せ書きや、小学校教員養成課程卒業生の卒業論文主題一覧表もあります。もの忘れの多くなってきた私ですので、四十年も前のことは当然忘却の彼方ですが、少しずつ書かれた人の著作権を尊重しつつ、同期の個人の文は載せないまでも、その当時の恩師

昭和二十八年頃の

松山市街あれこれ



小野植元幸

(昭二九卒)

昭和二十年七月二十六日、二十七日「松山空襲」。焼夷弾を投下し、中心市街地は焼野原、残ったのは県庁、その他わずかに残った鉄筋コンクリートの建物だった。

昭和二十八年国体開催のため、市内の中心街は、目覚ましく復興。国体施設の建設。特に、堀之内は、天皇・皇后両陛下を迎える開会式場、ラグビー場、貝殻体育館等で一新した。

愛大教育学部は、松山二十二連



愛媛大学 教育学部 昭和49年卒同窓会 (平成24年8月5日 於にぎたつ会館)

の言葉などを何回かに分けて、紹介していこうと思います。ご期待ください。

隊跡の木造二階建て並び、床は板張り、下駄の音が響いた。グラウンドは、草がはえ、バレーボールコート・テニスコートは、土であり、体育館はなかった。愛大附属小・中学校は道路へだてて、教育実習には楽をした。

松山東高側に文理学部があり、一般教養の「憲法」の学習では、文学部と合同のため約二百人受講。大野盛直教授(上浮穴郡出身)がマイクを使い、蘆蕩と講話された。

当時の大街道・銀天街は、歩道のみアーケードはテント張り。アーケード歩道は、靴磨屋、街頭写真屋。店屋は、食堂、衣服店。パチンコ、スマートボール、映画大繁盛。松山市街に映画館十一館。三津にもあり観客が多く各館大盛況。

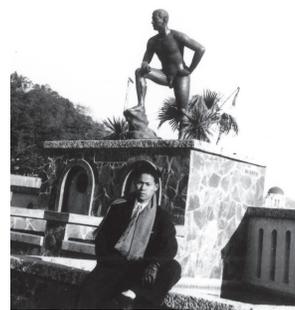
日本映画全盛は、昭和二十五年より。映画会社は、年間五百万以上作品量産。一九五八年(昭和三十三年)、観客数延べ十一億三千万人。

映画館の数もピーク時は、全国七千五百館。役者さんは七、八本かけもちで五万回斬られ役をした人もいたという。

わが町も二館、五十崎、天神、小田町にあり、田舎でも大盛況。内子町では、重文の内子座でも芝居の合間に上映。

旭館は、大正十五年(一九二六)に開館。芝居小屋としてスタートしたが、当時魁座と呼ばれていた。が、内子座が大正四年(一九一五)開館。両館が、客の奪い合いとなり、話し合いで大洲村(現大洲市)大正館に売却。戦後「電気館」として「映画館」開館。

昭和二十五年・六年は高校生で



第8回国民体育大会記念銅像 (堀之内 昭和28年10月)

あり、教育映画は、学校より引率で視聴。昭和二十八年は愛大の学生であり、毎日のように視聴。年間百二十三本。一回一本立て(三十円)、三本立て(五十円)で再上映は二十円だった。

東京オリンピックで、カラーテレビが普及して、終わった一年後観客数激減。映画館も一気に三分の一に減った。テレビや家庭用ビデオ、レンタルビデオDVDの出現で映画館は、県内でも消滅した。平成二十五年十二月、内子町の「旭館」が登録有形文化財になった。

旭館は、保存活動の一環として年に数回上映して、保存修復に努力されている。県内唯一のもので内子に来町される方は、是非見学されたい。

喜多郡内子町 五百木一五四



登録有形文化財 旭館

同期会



第三十一回同期会

二九の会報告

小野植元幸
(昭二九卒)



本年も六月十四日(土)伊予鉄会館にて開催。教職員の拠点エスポール文教会館で開催したいのだが、電停道後駅より徒歩がタクシーで不便。その上に、八十歳が同期生で若く、八十八歳の方がおり、杖をついたり、膝の悪い人、通院している人もあり、便利の良い場所として、毎年同じ会場である。

当日は、受け付けの始まる前から集合。一年振りの再会。卒業以来六十年振りの再会もあり、「元気で何より。」と握手したり、つもる話で賑やかな序章ではじまった。

集合写真は、膝、足の悪い人は腰掛けで前列。「写る、写らん。」と「ワイワイ、ガヤガヤ。」

三年前二十五名に減少し、世話人より「解散」の声があったが、「続けよう。出席するから。」拍手があり、前年三十七名。今回は、三十一名。内訳は、県外五名(東京・大阪他)東予五名。中予十三

名。南予八名。昨年に続いての出席者十九名、今回参加者十二名。

十二時開会。はじめからもり上がり、ドクターストップ、車の人はお茶やノンアルコールで御馳走を食べて談笑した。

学生時代のエピソードや第八回国民体育大会の話。日本復興の行事として、四国四県合同開催。愛媛が中心、開会式は堀之内(元競輪場)。今は城山公園となっている。役員不足のため、要請がありボランティアで参加しよい思い出となっている。役員の役員章、腕章、襟章、タオル、記録簿。六十五年前の松山市内の観光写真(五枚)を県生涯学習センターへ寄贈。

談笑は、学生時代の思い出が中心で、戦後八年目のため城北練兵場跡の木造二階校舎の床は板ばり。物不足で、ズツカ下駄であり、授業中歩く音がしても平気で授業。

体育館なし、グラウンドでバレー



平成 26 年 6 月 14 日 愛媛大学 29 会 同窓会 於 伊予鉄会館

ボールやテニスをした。各自二分間のスピーチ。家庭状況、健康、趣味、介護等情報交換。二時間半の時間もあつという間に終了。

県外から出席の者は、「一期一会」になるかもしれないため、お互い健康で長生きするのが勝ちと念じながら。

来る愛媛国体が三年後、東京オリンピック二〇二〇年開催まで元気で「参加しよう。」と誓って、「バンザイ」「三、三、七拍手」で散会。

集合写真が、最終章時に配布され、よい思い出のページとしてアルバムにはり、至福の一日となった。来年も参加しよう、元気で、友の顔をみようとする……。

(☎) 791-3351 喜多郡内子町

五百木一五四

放送大学四月入学生募集のお知らせ

放送大学では、平成二十七年四月入学生を募集中です。
(募集期間)三月二十日(金)必着

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では心理学・福祉・文学など幅広い分野を学べますが、同窓会員とくに現職の方々はつぎに掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

○ 放送大学の大学院を利用して、専修免許状の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、司書教諭資格の取得が可能です。

○ 放送大学の講習を受講して、教員免許更新が可能です。

資料を無料で差し上げられます。お気軽に、愛媛学習センターまでご請求下さい。



放送大学

知識が人生を変えていく

一科目からでも学べます

平成27年度4月入学生募集中!

(平成27年3月20日まで)

問合せ先 **愛媛学習センター**

TEL 089-923-854

●インターネットで資料請求・出願できます。 ●資料請求専用フリーダイヤル

放送大学 www.ouj.ac.jp ☎ 0120-864-600



支部だより

南宇和支部

石の上にも三年？

南宇和支部

若田 正

(昭五四卒)

私が、南宇和支部の支部長を引き継いで始めた「落語会」が、三回目を迎えた。

へき地小規模校である愛南町立僧都小学校の子どもたちに「伝統ある本物の日本文化」である「生の落語」に触れさせ、子どもたちの「生きる力」につなげたいと考へ始めた。また、校区の地域は、各地で問題になっている少子高齢化が進み、「伝統ある本物の日本文化」に触れる機会が少なくなっている。そこで、お年寄りにも「伝統ある本物の日本文化」の「生の落語」に触れていただき、笑って健康に過ごしていただきたいと考え始めたのだ。

今回開催するにあたって、問題

になることが何点かあった。

まず、私が異動により、別の学校への勤務になったことだ。会場をどこにするか、僧都小学校の子どもや保護者への呼びかけをどうするかなど悩んだ。僧都小学校区のことを思い始めたことなので、これまで通りの大ききにも雰囲気的にも適した、最大八十名近く収容できる僧都小学校近くの「ふれあい交流館」で開催することに決めた。僧都小学校区の子どもや保護者の参加については、後任の校長に話をし理解していただいた。現任校の久良小学校区については、児童を通してチラシを配布したり、公民館にチラシを掲示していただいたりして、来場者を募るといった方法をとった。

次に、経費の捻出の問題だ。日本教育公務員弘済会愛媛支部に協力していただいていたが、教育文化奨励金への応募者が増加し、減額されたのだ。普通の入場料（木戸銭）を払ってまで落語を聴こうという文化を持ちあわせた方は、愛南町にはまだ少ない。安価

な額だからこそ、来場する。そこで、スポンサーになっていただけて、そうなることを何か所かあたってみた。幸いにも、僧都小学校の保護者が関係する地元の工業業さんが、快く引き受けてくれた。

さらに、交渉の窓口の問題だ。今回から、直接師匠とのやり取りではなく、事務所を通してのやり取りになったので、少しややこしくなった。担当者が始めてで私の方が慣れており、私の方から早め早めにどんどん提案していき交渉した。日程確保から、飛行機、列車の便探し、行動スケジュールの確認等、まるで菊志ん師匠のマネージャーをやっているようだった。日程については、カツオのおいしい時期に師匠に食して欲しいと考え、様々な行事を検討した結果、昨年度から十月第三土曜日に実施することにしたので、早めに抑えることができた。

日程が決まり、事務局の菅田先生へチケット等の手配を頼み安心したのだが、今度は、旅行社の担当者があまりにも忙しくて、菊志ん師匠にチケット等が渡るのが遅くなり、いろいろ心配をかけてしまったのだ。それに、不足のチケットがあり、菅田先生に配慮し

ていただき助けていただいた。

迎えた当日朝、師匠から電話が入り、飛行機の遅れで列車が一遍遅れるとのこと。とりあえず、そうなることも考えていたので慌てはしなかったが、愛南町でカツオの入った昼食を一緒にとる予定を変更し、松山で先に一人で済ませようお願いした。師匠を迎えに宇和島まで行き、「ふれあい交流館」まで案内し、マイクの調子等の確認をして本番を迎えた。

様々なことを解決し迎えた本番。今回は、予算の関係もあり、また、師匠の忙しさも考慮し、午後三時からの一回口演だけにした。これは、夜になると暗くなり、会場までの行き来が困難になる方がおられるのではないかとという心配もあったからだ。

現任校の二名の小学生と保護者を含め七十名余りの方が来場され、「まんじゅうこわい」「禁酒番屋」の二つの落語を楽しんだ。落語についての基礎知識を織り交ぜながら、また、代表児童に体験させながらの話だったので、来場された方はすっかり虜になったようだった。

入場料（木戸銭）として五百円をいただいているが、お土産と

して、お茶と地域の伝統菓子「まきはんべ」というものを今年度も持ち帰っていただいたので、良かったのではないかと思っっている。「まきはんべ」は、地元の婦人会にお願いして作っていただいている。これは、郷土料理の宣伝と婦人会とのつながりを保つことを意図して行っている。

アンケートによると、菊志ん師匠を八割近くの来場者が知っていたと回答しており、少しずつではあるが、菊志ん師匠のことが浸透してきたことが、何より力強かった。

最後に、同窓会員の方に受け付けや駐車場などの係りを手伝っていただいたり、宇和島から来場していただいたりし始めたことが、少しやりがいを感じるところである。三回目を迎えて軌道に乗り始めはしたが、「久良にも菊志ん師匠を呼んでください。」という声が出た。このように様々な課題も出てくるだろうが、一つ一つ解決し、五回目七回目と回を重ねていきたい。





熱演する師匠

禁酒番屋

まんじゅうこわい



(まんじゅうをとるしぐさ)



体験コーナー
(そばを食べるしぐさ)



大笑いの客席



県外支部だより

岡山支部

第三回同窓会

岡山支部総会・忘年会開催報告

午から未へのバトンタッチが始まりかけた平成二十六年十二月六日、漸く第三回岡山支部総会を開催することができた。今回は、新年度の役員を決め、支部総会で会員の皆様に承認頂くということを中心頭に置き準備を進めたため、支部会則の作成及び役員の選考等が重なり、総会開催までにかかなりの時間を費やした。

この間、体調不良にも拘らず、岡田潤岡山支部長には、猛暑の夏から師走までの三回に互る準備会資料作成の傍ら、支部会則の起草や次年度必要な名簿の整理等諸々の総会に係る事務処理を精力的にされる姿には頭が下がった。次に岡山支部会則の抜粋を記してみる。

第一章 総則

第二章 会員

第3条 正会員 岡山県在住教育学部の卒業生・大学院教育学

研究科の修了生

准会員 岡山県出身の教育学部

学生及び大学院教育学研究科

の在学生

第三章 目的及び事業

第4条 本会は支部会員の親睦向上を図るとともに、愛媛大学及び同窓会の活動を支援し、岡山県の教育及び社会事業の振興に寄与する

第四章 役員

第7条 役員の任期は2年とする。欠員ができた場合はこの限りではない。

第五章 役員の任務

……以下第六章、付則へと続く。

こうして、総会へ向けての準備会を経て支部会則(案)及び事務規定等を決定したうえ、

平成二十六年十二月六日(土)

岡山市駅元町の「まつのき亭」で、

十三時から総会、引き続き十四時

から忘年会(懇親会)を開催した。

第三回愛媛大学教育学部同窓会岡山支部総会・忘年会は、教育学部同窓会本部から、公私ともにご

多忙なこの時期に高橋治郎会長と菅田顕常任幹事をお迎え出来たこ

とは、同窓会本部の岡山支部への力強い支援と受け取ることができ、卒業以来距離を感じていた松

山と岡山の時間と空間が一挙に縮まった感を出席者一同共有したところではなからうか。

それにしても岡山支部の総会への出席者数は、お越し頂いたお二方をおもてなしするには程遠い人数で、いくら衆議院選挙があったとはいえ、大いに反省している。

このようなことの無き様支部会則第6条を熟考したが、県南と県北のアクセスと気象問題には敵わなかった。「夜の会にならないように……」との女性の声にも耳を

傾け、総会を昼間開催としたが、これにも「介護の問題」が浮上してきた。

こうしたことから、今後は会則十五条の付則が盛り沢山になってくると考えられる。

何れにせよ、一人で生きて行くには難問山積の社会構造のため、支部の運営及び役員に、若い人の積極参加が不可欠で、それが可能

な先駆的な試みが無ければ、温かく強い絆で結ばれる息の長い同窓会活動は程遠いものになるだろう……。

十三時からの支部総会・懇親会は、岡田支部長が体調不良で入院のため、支部長代理の挨拶で始まった。続いて高橋同窓会長から温かい挨拶を頂いた後、菅田常任幹事から支部活動支援費の贈呈式。続いて経過報告と支部会則の詳細説明並びに質疑応答。次に

会則と次年度役員承認へと進み、十三時五十分終了。

十四時からは忘年会(懇親会)。出席者全員の記念撮影で始まった。次に乾杯。県内最遠の津山地区会員からの力強い発声の後は懇親会。アルコールも入り場は一気に和やかな雰囲気変わった。本部からお越しの御両名より、現在の愛媛大学の状況や学生気質について拝聴した時、半世紀という普段はさほど気にしない時の移ろいに、出席者一同改めて歳を感じた様子だった。

次に出席者全員が各自の思いを述べた。梅津寺でのボート部の練習の思い出や、作文の会の思い出、大洲の出身で岡山には知人が居ないため、欠席の予定だったが、来てみると雰囲気がよくて面白かった。とか、来年度は愛媛

大学と道後温泉を訪ねるバス旅行をしよう。という声も出た。会長や常任幹事から、待ってるよ！と盛り上がった所でお開きとなった。

今回の岡山支部総会・忘年会は、ご多忙にも拘らず、遠路お越しくださった本部からのお二方のおかげで何とか開催できたと思われる。

次年度は、新たな催事の企画・実施や総会の時期を考え、多くの若い会員が参加可能な支部の運営が急務であると思えた。

(文責 神崎(順治))



第3回愛媛大学教育学部同窓会岡山支部総会
(平成26年12月6日 於まつのき亭)

学部トピックス

教育学部留学生歓迎会を開催しました

【十月二十八日（火）】

平成二十六年十月二十八日（火）、校友会館二階「サロン」で、教育学部留学生歓迎会（後学期）を開催しました。

本学部留学生は、今年度十月から新たに五人を迎え、現在十一人が在籍しています。歓迎会には、留学生、国際交流委員会委員、留学生チューターなどの関係者が一同に集いました。

国際交流委員会の隅田学准教授の司会のもと、三浦和尙教育学部長の歓迎挨拶があり、乾杯でパーティーが始まりました。その後、委員会メンバーの自己紹介があり、続いて十月に来日した学生が緊張の中、日本語で自己紹介を行いました。アレヴァロカリツアアナカチコさんは、男性ばかりのタッチラグビーのクラブで活動している趣味を



パーティ風景

紹介して、会場を沸かせました。歓談を通して交流が行われ、和やかな雰囲気の中で閉会となりました。

留学生の皆さんにとって、本学で過ごす留学生生活が有意義なものになるよう願っています。

愛媛県美術館の開館記念イベントで

「藍染めづくり」を行いました

平成二十六年十一月二十三日

（日）、愛大G P「伝統の継承プログラム」を通じたグローバルマイノの育成」事業として、愛媛県美術館の開館記念イベント「藍染め和紙のしおりづくり」を行いました。

愛大G P「伝統の継承プログラム」を通じたグローバルマイノの育成」事業は、平成二十五年度より愛大G P特別テーマとして立ち



留学生挨拶

上げられ、愛媛県美術館・本学美術研究会・松山東雲女子大学と協働して実施しています。

今回は、愛媛県美術館前で一般の方を対象に、藍染め和紙のしおりづくりを実施しました。実施にあたり、本学部造形芸術コースの学生たちが千代田憲子教授と共に、みかんの木、坊ちゃん列車、宇和島真珠などの愛媛をイメージした消しゴム判子を作成しまし

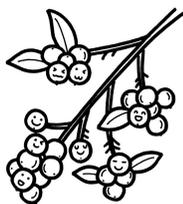


幅広い年齢の方が製作に参加



最後にハトメで紐を通す穴を開けます

た。参加者は、この消しゴム判子を選び、藍染め和紙に多色刷りで捺印し、しおりを製作しました。



第十四回愛媛大学教育学部同窓会懇親会

報告

同窓会理事
替地 和人
(昭四九卒)

期日 平成二十六年八月二十三日
(土)

場所 全日空ホテル別館
「エメラルド」ルーム

出席 百七十名

一 場所を一新して
二年に一度の楽しい会がやってきました。今年、いつもの「ひ



高橋会長挨拶

めぎんホール」(旧県民文化会館)ではなく、新しい試みとして、一番町の大街道入り口近くにある市内電車の電車通りに面した全日空ホテルでの開催でした。ご馳走の趣も変わり新鮮さを感じました。今回は柳澤学長が出席され、同窓会に花をそえてくださいました。



柳澤学長挨拶

式次第は、
進行 (山本千鶴子副会長)

- (一) 開会のことば(峯本高義氏)
- (二) 恩師・物故者に対する黙祷 (山下雅司氏)
- (三) 同窓会長挨拶(高橋治郎氏)
- (四) 祝辞
- 愛媛大学長 (柳澤康信氏)
- 教育学部長 (三浦和尚氏)
- (五) 来賓紹介 (村上朋子氏)
- (六) 賛助出演
- 愛媛大学文化系サークル 邦楽部
- (七) 開宴乾杯 (満田泰三氏)
- (八) 閉会のことば(村上朋子氏)でした。



三浦学部長挨拶

第14回愛媛大学教育学部同窓会懇親会



満田理事漫才衣装で乾杯

来賓として、金谷茂先生、高槻貞夫先生、兵頭寛先生、宮内正義先生、石川廣美先生、渡部晴行先生、伊藤徹先生、宮内正義先生、奥定一孝先生、菊川國夫先生、村上嘉一先生にご参加いただきました。ありがとうございました。恩師の先生方に再会できるのが、同窓会の大きな楽しみであります。「無縁社会」などと言われる現代ですが、学窓で築いた絆をいつまでも大切にしていきたいものです。

二 楽しい趣向で
宴は満田先生の伊予漫才で盛り上がりました。「同窓会のしおり」にある出席者名簿の番号と高橋同窓会長が引いた番号が一致すると素敵な景品がプレゼントされました。私は残念ながら一番違いでした。今回は前後賞もぜひお願いし

たいと思っています。懇親会が盛り上がったのも、毎回いろいろな企画をしてくださる常任幹事の菅田先生のおかげと感謝しています。
昭和四十八年卒業の「矢野聖寿」先生は多才な方で、「松山めぐり」なる歌を作詩・作曲され、CDデビューしたり、老人ホームの慰問活動もしたりされているとかで、豪華な衣装で会を華やかにしてくださいました。ほかにも、ピアノの弾き語りをしてくださる先生あり、その周りに集まったの合唱あり



愛大邦楽部賛助演奏

りで、いつもにも増して楽しい宴となりました。

三 次回は「えひめ国体」の前年です。

「えひめ国体」は何十年に一度の大イベントです。東京オリンピックの開催とあいまって、スポーツに耳目が集まっています。「えひめ国体」では四国遍路のお接待の心でたくさんボランティアが活動するでしょう。我が同窓

の先生方も現役と協力して若い頃や教員のときに関わった競技や地元の開催競技のボランティアとして



歌高らかに学歌斉唱

て活躍されるのではと思います。前年の二〇一六年には、そうした競技の情報交換もあるのではないかと期待しております。また、県外在住の方は、関係をもたれている競技の下見に、ぜひご来県くださいますよう祈念して報告いたします。



名司会の山本副会長

懇親会場風景



記念にパチリ



余興で矢野氏の美声



和気あいあいの会場



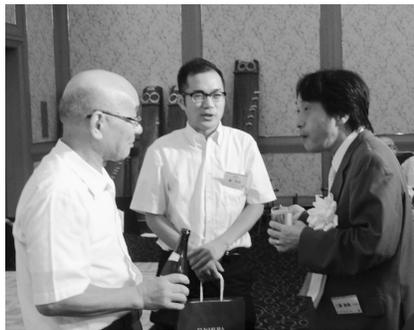
受付風景



学歌斉唱



恩師の席



学部長さんと談笑



会場盛り上がる



見事なピアノ即興演奏



邦楽部演奏



笑顔が素敵ですね



抽選もありました



綺麗どころをパチリ



万歳三唱で閉会



次回も楽しみにして

原稿募集

—次号 第二二〇号—

短くても結構です。多くの方々のお気軽な寄稿をお待ちしております。

○『会員の声』・「今、教育に思うこと」について、ふるって投稿下さい。

★ 同期会や支部同窓会などの集会や活動について

★ 恩師・先輩・同僚の訪問や思い出について

★ 職場の近況や所感や活動について

★ 文芸(随想・俳句・川柳・短歌・詩・絵手紙等)について

★ 会員便り

1 旅行記 4 この頃思うこと
2 季節便り 5 忘れ得ぬ人など
3 教育雑感

※ 投稿が多数になった場合には、編集委員会で選ばせていただきますので、ご了承ください。

◇ 原稿切 四月三十日
発行 七月一日 予定

★ 依頼者以外は千二百字厳守
四〇〇字詰原稿用紙の一行を十五字にして書いて下さい。

★ 写真
筆者の顔写真を添付してください。顔写真以外で内容に関連した写真もあれば送ってください。

会報の送料納付

について

平成二十六年七月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。

出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

記

①一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっていきます。

②二年ごとの更新は、煩いので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法 郵便為替・現金書留・郵便振替で

振替口座番号
〇一六四〇一七二七五四

送り先 七九〇一八五七七
松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。

敬弔

(物故会員)

(死亡年月日)

(氏名)

25・10・4	井上光子	(昭23・青師)	26・6・26	岡本信市	(昭20・本科)	26・9・22	山地秋好	(昭19・青師)
26・4・19	丹篤雄	(昭34・愛大)	26・6・20	近藤重利	(昭33・愛大)	26・9・29	岩瀬仁八	(昭25・愛大)
26・4・23	中川和男	(昭23・本科)	26・7・29	福島美枝子	(昭24・青師)	26・10・4	北村須磨子	(昭29・愛大)
26・4・29	大野直續	(昭25・本科)	26・7・11	山田孝昭	(昭34・愛大)	26・10・9	永野啓造	(昭32・愛大)
26・5・14	村上末張	(昭19・本科)	26・7・4	平井博	(昭23・本科)	26・10・12	西田愛太	(昭28・愛大)
26・5・21	竹宮千代	(昭19・本科)	26・7・24	阿佐部ミツギ	(昭21・愛師女子部)	26・10・19	松澤英文	(昭23・青師)
26・5・22	鈴木恒和	(昭29・愛大)	26・7・29	近藤勲	(昭19・青師)	26・11・2	日野文子	(昭19・愛師女子部)
26・5・23	星川眞澄	(昭22・本科)	26・8・1	野間イシ	(昭21・愛師女子部)	26・11・3	秦昭二	(昭24・本科)
26・5・25	楠田一夫	(昭20・本科)	26・8・16	清水恭二	(昭24・青師)	26・11・4	大河良温	(昭22・本科)
26・5・29	百合田基之	(昭27・愛大)	26・8・20	田中一	(昭16・本科)	26・11・5	河野博	(昭16・本科)
26・5・29	近藤隆光	(昭22・本科)	26・8・22	上原勲	(昭22・本科)	26・11・10	黒田一樹	(昭37・愛大)
26・5・30	高野スマ子	(昭13・本科)	26・8・28	赤坂章	(昭31・愛大)	26・11・14	藤原一樹	(昭18・本科)
26・6・2	岡田文雄	(昭16・本科)	26・9・4	富吉積太郎	(昭18・本科)	26・11・16	坂上ナツエ	(昭4・本科)
26・6・4	尾崎繁美	(昭27・愛大)	26・9・6	矢野三弘	(昭20・本科)	26・11・19	長橋幸子	(昭31・愛大)
26・6・6	佐野和子	(昭27・愛大)	26・9・7	上甲利	(昭23・本科)	26・11・27	東恒雄	(昭22・青師)
26・6・6	今村美由紀	(昭46・愛大)	26・9・8	高木毅	(昭29・愛大)	26・11・29	浅野芳子	(昭30・愛大)
26・6・6	(昭24・愛師研究科)		26・9・15	濱田芳美	(昭24・愛大)	26・12・4	原和忠	(昭8・本科)

「第5回愛媛大学ホームカミングデイ」を開催しました 【平成26年11月8日】

【11 / 8 ホームカミングデイ ご報告】

平成26年11月8日（土）に、第5回愛媛大学ホームカミングデイを開催し、卒業生、本学学生及び教職員合わせて約280人が参加しました。

ホームカミングデイは、卒業生の皆様に青春時代を過ごした愛媛松山に、授業や研究、サークル活動に励んだ懐かしいキャンパスに帰ってもらい、恩師との交流、後輩との交流、教職員、在校生との楽しい時間を過ごしていただくため、平成22年度から愛媛大学と校友会との共催で実施しており、今回が5回目の開催となりました。

当日は曇り空ではありましたが、卒業生や教職員OBの皆様が母校に足を運んでいただき、キャンパス内の学生祭と相まって活気あふれる一日となりました。また、式典に先立ち実施した同時開催イベントでは、「ミュージアム見学」、「植物工場見学」、在学生のための「愛媛大学事務職員との交流イベント」が実施され、多くの方々に参加いただきました。

南加記念ホールで行われた式典では超満員となり立見が出るほどの盛況ぶりでした。式典では、愛媛大学合唱団の学歌斉唱に続き、柳澤康信学長より挨拶と愛媛大学の近況についての講話がありました。



学歌斉唱（愛媛大学合唱団）



愛媛大学の近況（柳澤康信学長）

続いて本学東アジア古代鉄文化研究センター長の村上恭通教授の『鉄と塩と文化の海廊・瀬戸内海今昔物語』と題した特別講演がありました。

その後、留学生の卒業生を代表して、ネパール在住のYogesh Hari Shrestha氏の挨拶がありました。Yogesh氏はネパール政府農業開発省の花弁園芸センター長として活躍されています。また、Yogesh氏は校友会ネパール支部の支部長としてご尽力いただき、本学留学生の帰国後のネパール内における交流を促進するとともに、本学との連携や人的ネットワーク作りを進めてこられました。Yogesh氏の熱いメッセージに会場の皆さんも大きな拍手を送られていました。

最後に学生サークルのダンス部がパワー溢れるダンスを披露し、式典を終えました。



特別講演（村上恭通教授）



卒業生挨拶（Yogesh Hari Shrestha氏）



学生サークル紹介（ダンス部）

